公使館口上書ニモ記載セラレ居リ概ネ右ニテ御了知ノ通ナル処同公使館ヨリ今般英國側ノ通報左記ノ通轉報越シタルニ付右御參考迄茲ニ通牒ス

記

「一般的ニ云ヘバ英帝國内ニ抑留セラレ居ル同一家族ニ属スル日本人常人ハ何レノ地ニ於テモ同棲スルヲ許容セラレ居レリ」（以上）

本信送附先　陸軍省、俘虜情報局、内務省、大東亞省

俘給第五四号

家族抑留者ノ同居措置ニ関スル件

昭和十九年十二月六日

俘虜情報局長官

鈴木公使殿

居普通合第八八三号ヲ以テ来照首題ノ件左記ノ通回答ス

一、日本軍占領地ニ於ケル軍抑留者ノ中同一家族ハ同居セシメ得ルコトヲ規定シアリ

二、香港、比島及「ビルマ」ニアリテハ同一家族ハ之ヲ同居セシメアリ

三、他ノ軍抑留所ニアリテハ設備其ノ他ノ都合ニ依リ全部同居ヲ許可セサルカ又ハ一部同居ヲ許可シアリ

四、目下別居セル抑留者中ニモ同一抑留所内ニ居住セシメ常ニ面接セシメアルモノアリ又同一抑留所内ニ居住セシメアラサル場合ニ於テ時々家族ノ面接ヲ許可シアリ

昭和十八年八月十六日

外務省在敵國居留民関係事務室

鈴木公使

俘虜情報局長官殿

抑留船員ノ俘虜トシテノ取扱ニ関スル件

曩ニ英國政府ヨリ瑞西政府ヲ通シ英本國自治領（但南阿聯邦ヲ除ク）及印度政府ハ抑留商船員ヲ俘虜トシテ改メテ取扱フモ強制労働及俘虜待遇條約第二十三條ノ給料支拂ノ件ヲ除ク旨及右待遇変更トシテ（for reasons of a practical nature）ト申越タルニ付該理由ノ意味並ニ斯ク待遇ヲ変更セラレタル者ノ収容所別氏名、並各自ノ海員トシテノ資格ヲ問合セ置キタル処今般在瑞西阪本公使ヨリ右ニ関スル英國側申出ノ次第ヲ通報越セルニ付御参考迄ニ其ノ訳文移牒ス

抑留船員ノ待遇ニ関スル件

（在瑞西阪本公使八月十日発電）

瑞西國外務省ヨリ左ノ通英國政府ヨリノ申出ニ付通報越セリ

以下訳文

捕獲商船員ヲ寿府條約第八十一條ニ包含セラルルモノナルカ如ク取扱フコトヲ得シムル実際的理由（reasons of a practical nature）ハ之ヲ左ノ如ク要約シ得ヘシ

一、商船員ハ其ノ習慣及生活様式ヨリシテ抑留スルニ当リ之ヲ生業ヲ異ニスル他非戦闘員ト同居セシムルヨリハ職業ヲ同ウスル他ノ者ト一緒トスルコト経験上幸福ナルカ如シ

二、商船員ノ船中規律ニ従ヒ勤務シ且生活スルヲ以テ軍紀ニ習熟シ抑留中此ノ種規律ニ服セシムルコト統制上便ナリトス

三、之ヲ俘虜トシテ取扱フニ於テハ関係俘虜情報局ニ依リテ記録セラレ同局ヲ通シテ其ノ氏名ヲ通報スル劃一的制度設定セラルヘシ

右ノ如キ理由ニ加ヘ（英國ト）独、伊両國政府トノ間ニ商船員ノ地位ニ関スル諒解成立シ独逸政府ハ非戦闘員ニ関スル事項ハ之ヲ同國俘虜情報局ヲ通シテ通報セサルモ商船員ノ捕獲ニ関シテハ普通之ヲ同局ヲ通シ通報スルヲ常トスル事情ヲモ考慮ニ入ルルヲ妥当トスヘ

シ

英國外務省ハ右事由ヲ日本政府ニ通達方瑞西國政府特務部ニ依頼スルニ当リ特務部ヨリノ電報第二項ニ付テハ英帝國抑留ニ係ル日本船員氏名ハ既ニ在倫敦俘虜情報局ヨリ通報発セラレ居リ今後モ同様手続ヲ為サルヘキコトヲ日本政府ニ通報方御取計相成度　尚右ハ各自治領及印度政府ニ對シテモ右手続方実行セラレ居ラサリシトセハ俘虜情報局ニ相当スル機関ヲ通シ同様通報スヘキ様指示セリ

英國外務省ハ本情報ニ関スル日本側ヨリノ照会ニ鑑ミ日本政府ハ相互的立場ニ於テ其ノ捕獲ニ係ル英國商船員ニ関スル通報方ニ付同様機関ノ使用継続方実行セラルヽモノナルコト即チ日本政府ノ労働及給與ノ点ヲ除キ事実上寿府條約第八十一條ニ之ヲ包含セシムル我方提案受諾ノ意嚮ヲ有スルモノト推定ス但英國外務省ハ右推定カ果シテ本件ニ関スル日本政府ノ態度ヲ正確ニ指示スルモノナルヤニ関シ確認セラルルコトヲ多トスルモノナリ

昭和十八年八月二十五日

外務省在敵國居留民関係事務室

鈴　木　公　使

俘虜情報局長官殿

抑留船員ノ俘虜トシテノ取扱ニ関スル件

八月十六日附当室発本件ニ関スル移牒通報ニ関聯シ今般在瑞西阪本公使ヨリ追報アリタルニ付其ノ訳文御参考迄ニ移牒ス

抑留船員ノ待遇問題ニ関スル英國外務省発

瑞西國政府特務部宛補足的説明追電

訳　文

一、抑留商船員ノ待遇ニ関スル八月六日附英國外務省書翰ニ関聯シ同外務省ハ右書翰第二項記載ノ「軍紀」ニ「習熟」スナル用語ノ使用ハ誤解ヲ生シ易キコトヲ認メタリ

シ
英國外務省ハ右事由ヲ日本政府ニ通達方瑞西國政府特務部ニ依頼スルニ当リ特務部ヨリノ電報第二項ニ付テハ英帝国抑留ニ係ル日本船員氏名ハ既ニ在倫敦俘虜情報局ヨリ通報発セラレ居リ今般モ同様手続ヲ為サルヘキコトヲ日本政府ニ通報方御取計相成度　尚右ハ各自治領及印度政府ニ対シテモ右手続方実行セラレ居ラサリシトセハ俘虜情報局ニ相当スル機関ヲ通シ同様通報スヘキ様指示セリ

英國外務省ハ本情報ニ関スル日本側ヨリノ照会ニ顧ミ日本政府ハ相互的立場ニ於テ其ノ捕虜ニ係ル英國商船員ニ関スル通報方ニ付同様機関ノ使用継続方実行セラルヽモノナルコト即チ日本政府ノ労働及給與ノ点ヲ除キ事実上寿府條約第八十一條ニ之ヲ包含セシムル我方提案受諾ノ意嚮ヲ有スルモノト推定ス但英國外務省ハ右推定カ果シテ本件ニ関スル日本政府ノ態度ヲ正確ニ指示スルモノナルヤニ関シ確認セラルルコトヲ多トスルモノナリ

昭和十八年八月二十五日

外務省在敵國居留民関係事務室

鈴木公使

俘虜情報局長官殿

抑留船員ノ俘虜トシテノ取扱ニ関スル件

八月十六日附当室発本件ニ関スル移牒通報ヲ以テ関聯シ今般在瑞西阪本公使ヨリ追報アリタルニ付其ノ訳文御参考迄ニ移牒ス

抑留船員ノ待遇問題ニ関スル英國外務省発

瑞西國政府特務部宛補足的説明追電

訳文

一、抑留商船員ノ待遇ニ関スル八月六日附英國外務省書翰ニ関聯シ同外務省ハ右書翰第二項記載ノ「軍紀」ニ「習熟」スナル用語ノ使用ハ誤解ヲ生シ易キコトヲ認メタリ

ニ仿テ英國外務省ハ貴部カ右ハ抑留商船員カ現實ニ軍紀ノ下ニ服務セルコトヲ意味セル次第ニアラス又事実上彼等ハ商船員トシテ斯ル規律ニ服セシムヘキニ非サルコトヲ諒承セシムルコトヲ希望ス

右ハ商船員トシテハ船舶ノ規律ト全然異ルニハ非サル規律ヲ習熟スヘク從テ抑留中斯ル規律ノ下ニ置カルヽ方統制ニ便多カルヘキコトヲ意味セル次第ナリ

英國外務省ハ同書翰中特ニ「軍」ナル語ニ引用符号ヲ附シアリタルニモ顧ミ貴局カ本件意句ヲ正解セラレタルヘキヲ疑ハサルモ何等誤解ノ生スルヲ豫防スル爲右辞句ノ意味ヲ明確ニシ置クコトヲ望マシキコトヲ諒セラレムコトヲ希望ス

居普通第六九四号

昭和十八年九月十一日

外務省在敵國居留民關係事務室

鈴木公使

俘虜情報局長官殿

加持力教徒タル俘虜ノ為最後ノ聖餐ニ神父立會方ノ件

本件ニ関シ八月二十四日附往信ヲ以テ在京羅馬法王廳使節中出傳達シ置キタル処今般同使節ヨリ東京、大阪、福岡及函館ノ各都市ニ於ケル担当司祭名左記ノ通通知越ノ上本件儀式施行ニ際シ可然連絡方依頼アリタルニ付右茲ニ移牒ス

尚同使節ヨリ本件ニ関スル軍当局ノ好意的御取計ノ御意嚮ヲ法王廳ヘ報告セル処同廳ニテハ俘虜ニ対スル宗教上ノ救済カ物質的優遇ヨリモ一層深ク感銘セラルヽ次第ナリトテ痛ク感謝シ居レル旨申越アリタルニ付右申添フ

記

収容所所在地	担当司祭名	年令	住所
東京	大泉 孝	四二才	東京都麹町区紀尾井町七 上智大学内（電話 九段 七八二）
	谷口 賢爾	三七	横浜市中区山手町四四 天主教会（電話 本局 五六七〇）、
大阪	前田 朴	三二	西宮市霞町三四 天主公教会（電話 西宮 一六九四）
	池田 実	三四	神戸市須磨区西垂水町九六一 天主公教会
	野田 秀吉	二九	兵庫県相生市陸字向垣一二四号 天主公教会
	（大阪ハ前記三名中ヨリ適宜選擇相成度シトノコトナリ）		
福岡	深堀 仙右衛門	五〇	福岡市浄水通三九 教区長館（電話 西 五三二三）
函館	小野 忠亮	三八	函館市元町三四 天主公教会（電話 三八八三）

訳文

参照第一〇七七号

英國人俘虜陸軍少佐 William M. Stewart, RAMC ニ関スル件

昭和二十年八月十一日

赤十字國際委員会
駐日代表部

俘虜情報局殿

本代表カ一九四五年七月二十七日東京俘虜収容所第五分所ヲ訪問仕候節御親切ニモ俘虜陸軍少佐 William M. Stewart. RAMC トノ会見ヲ御許可被成下候該俘虜ノ姓名ハ貴府宛貴電 4M/1 中ニ御通報相成居候

俘虜 Stewart ハ訪問代表ニ對シ自分ハ印度洋ニ於テ独乙攻入者ノ為メ捕獲セラレ其後横浜ヘ連行ノ上日本当局ヘ引渡サレタル旨申出候彼ハ英國ノ旅行免状ヲ所持致シ居候 彼カ独乙攻入者ノ為メニ捕獲セラレタル事実ト他方欧洲ニ於ケル戦争終了トヲ考慮シ彼ノ現在

ノ身分ニ関スル立場ヲ明ラカニナシ被下度希望仕居リ候
本代表部ハ俘虜 Stewart ヘ伝達仕候為メ右ニ関スル御意見御通知被成下候事ニ対シ前以テ御礼申上候

以上

俘給第四六号

昭和二十年八月二十六日

英人俘虜陸軍少佐 William Stewart, Rame ニ関スル件回答

俘虜情報局長官

赤十字國際委員会駐日代表殿

八月十一日附参照第一〇七七号ニテ来照首題ノ件左記ノ通リ回答ス

左記

帝國ノ権益内ニ入リタル敵國交戦者ハ凡テ俘虜ニシテ捕獲者ノ身分及捕獲方法ノ如何ニ拘

ハラサルモノト解ス
追テ大東亜戦争ノ終了ニ関聯シ帝國権益内ニ在ル俘虜カ解放サルル際ニハ首題英人俘虜モ共ニ解放サルヘキハ勿論ナリ為念

俘給第七号

大阪俘虜収容所収容中ノ英人「スミス」及「ウイリアム」ノ取扱方ノ件

昭和二十年一月二十日

俘虜情報局長官

外務省敵國居留民関係事務室

鈴木公使殿

客年十一月十九日附居普通第七五五号来照首題ノ件左記ノ通回答ス可然回答方取計ハレ度

左　記

一、瑞西國公使館口上書ノ二名ハ左記ノ者ノ如ク両名ハ昭和十八年九月十四日附OM三五号通報ノモノトハ同名異人ニシテ各々集団生活所ニ被収容現在中ナリ

氏名	年令	集団生活所名	元職業
Alexander S. Smith	四十九才	浦東	支那海関吏員
Charles Williams	四十一才	滬西第一	工部局監獄監守

二、昭和十八年九月十四日附OM三五号俘虜情報局名簿ノ二名ハ左記ノ通ニシテ何レモ大東亜戦争勃発時在上海英砲艦ペテレル号乗組員タリシニ依リ我カ海軍ニ捕獲セラレタルモノナリ

國籍	姓名	生年月日	捕獲場所及年月日	摘要
英	海軍三等兵曹 Corador Morgan William	一九一一.一〇.六	上海 一六.一二.一三	元ペテレル号乗組員
英	海軍三等兵曹 Smith A lexander	一九一一.七.一三	上海 一六.一二.八	〃

居普通第七五五号

昭和十九年十一月十九日

外務省在敵國居留民関係事務室

鈴木公使

俘虜情報局長官殿

大阪俘虜収容所収容中ノ英人「スミス」及「ウイリアムス」ノ取扱方ノ件

今般英國政府ヨリ申越セル趣ヲ以テ在京瑞西國公使館ヨリ別紙仮訳ノ通申出アリタルニ付委細ニテ御了知ノ上本件回答振ニ関シ何分ノ儀御回示相煩度

俘給第五七号

英人俘虜取扱ニ関スル件

昭和十九年十二月二十二日

俘虜情報局長官

[illegible]

ミス」（alexander S. Smith）及元上海工務局監獄監守「C. M. ウイリアムス」（C. M. Williams）両名ハ常人ト思ハルルモ一九四三年九月十四日附OM三五号俘虜情報局名簿ニハ上海ヨリ大阪俘虜收容所ヘ移送セラレタルモノトシテ記載セラレ居ル旨外務省ニ通報スルノ光栄ヲ有ス

然ルニ英國政府ノ情報ニ依レハ「スミス」氏ハ曩ニ浦東集団生活所ニ又「ウイリアムス」ハ愚遠路（訳註、滬西第一）集団生活所ニ在リタルモノナリ

特ニ「スミス」氏ニ関シテハ（同氏カ果シテ「アレキサンダー、スレーター、スミス」（alexander Slater Smith）ナリトセバ）英國政府ハ同氏ハ一九一四年－一九一八年戦争海軍豫備役ニ服役セル後ハ英國軍隊トハ全ク関係ヲ有セサルモノナル旨ヲ明確ニシ居リ又「スミス」氏ハ四十九才ニシテ現ニ健康勝レサル状況ナリ

依テ英國政府ハ前記両名カ集団生活所ヨリ俘虜收容所ニ移サレタル理由ヲ承知センコトヲ欲シ、適当ト認メラルル場合改メテ之ヲ抑留所ニ移サルレハ幸甚トス

昭和二十年一月十日上海俘虜收容所經由

昭和二十年一月十日

在上海日本帝國總領事館

上海俘虜收容所御中

一月九日附貴信上俘收庶発第七号ヲ以テ御照会ニ係ル左記英國人ハ當館管下敵國人集団生活所ニ被收容現在中ナリ

右囘答申進ス

左記

氏名	年令	集団生活所名	元職業
Alexander S. Smith	四十九才	浦東	支那海関吏員
Charles Williams	四十才	滬西第一	工部局監獄監守

別紙

英國俘虜身上調査書

一、簡單ナル履歴

イ、銘々票番号氏名　七一七一番　ウイリアム・キヤラドツク・モルガン　Caradoc. morgen. William

ロ、國籍階級　英國　海軍三等兵曹

ハ、生年月日　一九一一年十月六日生

ニ、経歴　一九一六年ヨリ一九二五年迄初等教育ヲ受ク

一九二七年ヨリ一九二八年迄事務員

一九二八年ヨリ一九三三年迄船員

一九三三年ヨリ一九三九年迄海軍ニ入隊

一九三九年三月ヨリ一九四〇年一月迄上海市警察局巡査ヲ務ム

一九四〇年一月召集サレ俘虜トナル

二、兵役関係

日新田丸ニテ日本陸軍ノ呉淞收容所ニ移サレ一九四二年十二月五日クワンワン俘虜收容所ニ移管セラル、一九四三年八月二十日クワンワン收容所出発同年八月二十四日大阪俘虜收容所ニ收容セラル

五、現在ノ健康状態

良好ナリ

六、其他参考事項

家族（妻、男児、女児）三名ハ現在上海ニ居住シアルモ妻（白系露人）ハ精神異状者ナル故上海ノ精神病院ニ入院中ニシテ子供二人ハ在上海瑞西総領事館ノ斡旋ニヨリ上海ノキングスドーダース協会ニテ保護サレアリ

英國俘虜身上調査書

一、簡單ナル履歴

一、俘虜番号　六六五四番

一、国籍階級　英国　海軍三等兵曹

公生年月日　一九一一年七月十三日生

二、経歴　一四才ニテ商船学校ヲ卒業シ一五才ノ秋ニ一二才迄海上ニテ労働ス

二、兵役関係

一九三四年二月十五日　海軍ニ入リ一二年ヲモッテ入隊ス

一九三五年　一ヶ月　一等水兵ニ進級

一九四〇年　三月頃　三等兵曹ニ任官シ今日ニ至ル

三、捕獲状況

一九四一年上海ニテ英帝国砲艦ペテレル号ノ乗組員トシテ勤務中日本海軍ニ撃沈サレ、ソノ後大陸沿岸ニ漂着シタル処ヲ日本帝国海軍軍隊ニ捕獲セラル

四、捕獲後ノ経過

捕獲後直ニ陸戦隊ニ身柄ヲ引渡サレ二月二十三日新田丸ニテ呉淞ノ日本陸軍ノ俘虜収容所ニ移管サレ一九四二年十二月五日クワンワン収容所ニ移管、一九四三年八月二十日同所出発八月二十四日大阪俘虜収容所ニ収容セラル

五、健康状態

良好ナリ

六、其他参考事項

就役状況ハ優秀ニシテ其他参考事項ナシ

訳文

参照第七〇九号

一、陸軍大将 McCrae ノ身分ニ関スル件

壽府委員会ハ本代表部ニ対シ右ノ情報ヲ貴局ヘ通達ノ上陸軍大将 McCrae ガ受ク可キ資格ヲ有スル保護ヲ得ル可ク依頼致シ来リ候

前述ノ事情ニ御座候間本代表部ハ前記印度ヨリノ説明ニ對シ貴局ノ御友誼ヲ期待仕候

而シテ該身分証明書ニ依リ陸軍大將 McCrae ガ保護ヲ受ク可キ職員トシテ待遇ヲサレン事ヲ切望スル次第ニ御座候

敬具

昭和二十年一月二十五日

赤十字國際委員会

駐日代表部

俘虜情報局殿

俘給第一五号

昭和二十年二月二十一日

俘虜情報局長官

「McCrae」ノ身分ニ関スル件回答

三ノ五

一EGIヲ以テ別添写ノ通申越シタルヲ以テ右訳文ト共ニ送付ス右ニテ御了知ノ上何分ノ儀御回示相成度シ

九月二十八日附在京瑞西國公使館口上書CC-5.10.1-EGi訳文

瑞西國公使館ハ上海俘虜收容所ニ於ケル英國陸軍衛生部隊（Royal Army Medical Corps）所属陸軍大將「ジェー・エー・ジー・エム・リンチ」（J.A.G.M. Lynch）外四名ノ英國人俘虜ガ戰地軍隊ニ於ケル傷者及病者ノ状態改善ニ関スル一九二九年七月二十七日ノ壽府條約第二十一條ニ規定セラルル認識証明書及徽章ヲ所持セザリシ為衛生人員トシテ認メラレザル旨通報越シタル帝國外務省口上書九月十六日附No.278/T.2ヲ受領セル旨ヲ同外務省ニ通報スルノ光栄ヲ有ス

公使館ニ於テハ直ニ右通報ノ次第ヲ英國政府ニ傳達方本國政府ニ依頼セリ

尚同公使館ハ英國政府ヲシテ前記認識証明書及徽章ヲ送付セシムル様取計方本國政府ニ依頼セリ

同公使館ニ於テ右受領次第之ヲ帝國外務省ニ転達スヘシ若シ外務省ニ於テ前記五名ノ俘虜カ關係当局ニ依リ[illegible]保護人員トシテノ地位ヲ認メラルル様斡旋ノ労ヲ執ラルルナラバ深謝ニ堪エサル所ナリ

右ニ對シ結果判明ノ儀回報方依頼旁々同公使館ハ茲ニ重ネテ帝國外務省ニ向テ深甚ナル敬意ヲ表ス

俘給第四七号

上海俘虜收容所ニ於ケル五名ノ英國人俘虜ノ取扱ニ就テ英國政府申出ニ關スル件回答

昭和十九年十月十九日

俘虜情報局長官

外務大臣殿

十月六日附條ニ普通第六八〇号來照首題ノ件英國政府ヨリ認識証明書及徽章ヲ送附シ來レル場合ハ之ヲ敵國衛生人員トシテ取扱フモ差支ナキ意見ナルニ付諒知相成度

條ニ普通合第一四七号

昭和十九年二月二十九日

外務次官

俘虜情報局長官殿

米國汽船「スタンヴァク・カルカッタ」及「ダブリュー・エフ・ハムフレー」号及「アウスト」号乗組員ニ関スル照会ノ件

本件ニ関シ今般在京瑞西國公使館ヨリ二月二日附口上書CC.1.7.13-EGCヲ以テ別添寫ノ通申越シタルヲ以テ右訳文ト共ニ茲ニ送付ス

海軍當局上ノ参考ト致度キニ付本件乗組員ノ捕獲セラレタル時期、場所、其ノ他ノ経緯
御回示相成度

各通送付先　俘虜情報局長官、陸軍次官、海軍次官

二月二日附在京瑞西國公使館口上書（O.T.13.500）訳文

在京瑞西國公使館ハ客年八月五日附口上書ヲ以テ帝國外務省ニ対シ米國政府ガ汽船「スタンヴァク・カルカッタ」（Stanvac Calcutta）号及「ダナリーエー、エフ、ハムフレー」（...Humphrey）号ノ乗組員ガ俘虜トシテ大阪ノ収容所ニ収容セラレ、汽船「アウスト」（Aust）号ノ乗組員ハ東京ノ収容所ニ収容セラレ居ル旨ノ情報ヲ得タル趣ヲ通報スルノ光栄ヲ有シタリ

同公使館ハ其ノ際前記水夫等ガ捕獲セラレタル時ノ状況並ニ彼等ガ抑留者ニ非ズシテ俘虜トシテ取扱ハルル理由ニ付承知シタキ旨ノ希望ヲ表明セリ

右ニ関聯シ同公使館ハ外務省ニ対シ俘虜情報局ノ答ニ依レバ「ダナリーエー、エフ、ハムフレー」号ノ乗組員ハ「マライ」、大阪及「ジャワ」ノ収容所ニ、「スタンヴァク・カルカッタ」号（一隻ノ船名ナリ）ノ乗組員ハ福岡及大阪ノ収容所ニ、及「アウスト」号ノ乗組員ハ東京ノ収容所ニ夫々収容セラレ居ル趣ナルコトヲ指摘スルモノナリ。尚本件ニ対スル回答ニ接セザルヲ以テ同公使館ハ帝國外務省ノ本件ニ対スル好意アル御意見ヲ喚起セントスルモノナリ

右申進旁々同公使館ハ茲ニ重ネテ帝國外務省ニ対シ深甚ナル敬意ヲ表ス

陸亜密

次官ヨリ外務次官宛回答案

二月二十九日附條二普通合第一四七号來照首題ノ件左記ノ趣旨ニ依リ瑞西公使館宛回答相成度

追テ右乗員ハ昭和十七年五月乃至七月頃南太平洋方面ニ於テ独逸海軍ニ捕獲セラレ帝國

ニ於テ受ケタルモノニシテ俘虜情報局ヨリ入ルモ俘虜ノ氏名並ニヨリ送ルノ番号判明
セルモノト推定セラル
尚俘虜ノ時期、場所等ハ通報ト一致セザル事多キ等

追記

俘虜救恤委員ノ取扱ハ原則上抑留者タルベキモノニアラズ俘虜ト為スベキモノナルコトニ就キ何等疑問ノ余地ナシト存ス

陸亜密第一九五五号　昭和十九年三月十二日

翻訳文

参照第一五九号

（目下京城俘虜収容所ニ収容中ノ濠洲赤十字社
代表 Richard Phillips ノ身分ニ関スル件

謹啓陳者貴局益々御隆祥奉賀候

就テハ一九四三年十一月十五日当代表ペスタロッヂ氏ガ京城収容所訪問仕候際標記ノ者ヨリ会見ヲ申込レ候其節「フヰリップス」ハ非戦闘員トシテ濠洲陸軍ニ附属サレタルモノニテ非戦闘員抑留者トシテノ取扱ヒヲ受クルモノナル旨申出候

最近寿府委員会ヨリノ来電ニ依レバ濠洲赤十字社ハ「フヰリップス」ハ医師部隊（Medical unit）先任代表者ニアラズ従ッテ駐日代表ヲシテ「フヰリップス」ヲ保護赤十字社員トシテ承認ヲ受ク可ク盡力ナスモノナル旨申越候由ニ御座候

朝鮮俘虜収容所長殿ハ御親切ニ本代表部ヘ「フヰリップス」ノ身分証明書写ヲ御送附被下候間貴局ノ御参考迄ニ茲許ニ同封御送附申上候

右事情ニ付目下俘虜ノ取扱ヒヲ受ケ居候「フヰリップス」ヲ非戦闘員抑留者トシテノ御取扱ヒニ御変更出来申候哉何卒御調査被成下度御依頼申上候若シ変更可能ナリトセバ従ッテ帰國ノ問題ガ持上ル事ト被存候

右御調査方御願申上度如此御座候也

昭和十八年十二月十六日

赤十字国際委員会

駐日代表部

俘虜情報局 御中

敬具

飜訳文

豪洲赤十字代表（将校待遇）ヲ豪洲陸軍ヘ配属ヲ受託セシ証明書

リジナルド ビセント フィリップス

右者ハ豪洲赤十字代表トシテ豪洲陸軍ニ配属スル事ヲ受諾セラレタルモノナリ

特ニレヂナルド ビセント フィリップス氏ハ動員身体検査規定（指令）ニ基キ身体検査ヲ受ケ第一種ニ類別セラレタル事ヲ証明ス

（豪洲陸軍軍医 二名）

受諾ニ関スル條件左ノ如シ

一、豪洲政府ハ俸給及手当ヲ支給セズ

二、一部隊（其ノ他）ニ配属セラレタル場合ノミ代表ニ對シ無料宿泊給與ヲ提供スルモノトス

三、豪洲陸軍ト関係アル事ニ依リ旅行行動スル場合ニ限リ無料輸送ヲ提供（出来得レバ）スルモノトス

四、作戦区域内ニ於テハ鉄兜及對ガス装具以外ノ個人用装具ハ支給セザルモノトス

五、陸軍支配区域内ニ於ケル行動ハ其ノ時ノ状態及同区域指揮官ノ命ニ依ルモノトス

六、赤十字代表ハ豪洲陸軍ニ配属セラレタル期間ハ将校待遇ヲ與ヘルモ陸軍ノ階級ヲ與ヘズ

七、陸軍将校用服装ニ着用スル事ヲ得ルモ政府ハ之ヲ支給或ハ之ガ購買手当等ヲ支給セズ、陸軍用帽子、カラー及階級章ヲ使用スル事ヲ得ズ

[illegible]ニ従ウモノトス
[illegible]濠洲陸
[illegible]
[illegible]ナサザルモノトス
[illegible]責任又ハ義務ヲ負担セ
ズ
以下生年月日、出生地、赤十字[illegible]、[illegible]濠洲陸軍関係[illegible]、本人ノ身長、体重、頭髪、眼
色、[illegible]、[illegible]等ナリ

俘情第六号ノ四八

朝鮮俘虜収容所ニ在ル濠洲赤十字社員ニ関スル件回答

昭和十八年十二月二十四日

俘虜情報局長官

赤十字國際委員会駐日代表殿

参照第一五九号来照首題ノ件該社員ハ赤十字條約第十條ニ該当スルモノトシテ同條約第九條ノ人員ト同様ニ取扱フヘキモノトス仍テ帝國ニ於テハ之ヲ俘虜収容所ニ抑留シアルモノニシテ目下其ノ取扱ヲ変更スルノ要ヲ認メズ

俘情第六号ノ四七

貴所収容俘虜ノ取扱ニ関スル件通牒

昭和十八年十二月二十四日

俘虜情報局長官

朝鮮俘虜収容所長殿

十二月九日附朝俘第三三七号通牒首題ノ件諒承ス然ルニ該俘虜ニ関スル貴所ヨリ赤十字國際委員会駐日代表宛ノ回答ニ基キ該代表ヨリ同俘虜ノ解放方当局宛申請シ来レルニ付別紙写ノ通回答シ之ヲ拒絶シ置ケリ尚同俘虜ノ取扱ニ関スル根拠法規左ノ通ニ付念ノ為

俘虜情報局長官殿

宗職ニ従フ俘虜又ハ抑留者ノ待遇改善方ノ件

本件ニ関シ在寿府赤十字國際委員会ヨリ別紙訳文ノ通俘虜又ハ抑留者タル敎法者ニ対シ外出許可等特別ノ便宜供與方申出アリタル処本件実施ニ付テハ困難ナル問題アルヘキモ同委員会申出不取敢一應傳達申進ス右ニ関シ何等御意見モアラバ御回示相成度

宗職ニ従フ俘虜又ハ抑留者ノ待遇改善方ノ件

（一九四三年七月十四日附赤十字國際委員会発外務大臣宛書翰）

赤十字國際委員会ハ同僚拘禁者ノ精神的要求ニ奉仕スル總ユル宗敎ノ俘虜又ハ抑留者ノ地位ニ関シ交戰各國ノ注意ヲ喚起致シ度右ハ従軍僧又ハ事実上之ト同一ノ職務ニ従フ者ヲ指スモノナリ

拘禁者ノ多クハ拘束既ニ三年ニ及ヒ斯ル長期ニ亘ル監禁又ハ抑留ノ結果トシテ俘虜特ニ抑

留者ノ間ニハ意気消沈ノ傾向ヲ示セテル者ハ長期間ノ収容俘虜ヲ中立國ニ収容スルニ関スル協定案未ダ成立ニ至ラザルガ為殊ニ著シキモノアリ、俘虜及抑留者ノ精神的救助ヲ要スルコト今日ノ如ク急ナルハナシ、而シテ彼等ハ彼等ト共ニ抑留セラレ居ル心霊ノ指導者ノ中ニ斯ル救助ヲ要望シツツアリ、然レドモ之等聖職者（Minds of religion）ヲシテ其任務ヲ遂行セシムルニハ彼等ガ外部トノ接触ニ依リ其精神力ヲ新ニスル為一定程度ノ自由ヲ享受セシムルコト甚ダ望マシキコトナリトス

列國ノ多クハ既ニ医師及収容所内ニテ医務ニ従事スル職員ニ対シ或ル程度ノ便宜（例ヘバ規則的外出、近親トノヨリ頻繁ナル通信又ハヨリ豊富ナル給食等）ヲ供与シ居レリ。若シ同様俘虜又ハ抑留者ニ対シ宗教ノ如何ヲ問ハズ聖職ノ任ニ当ルモノニ対シ此種便宜特ニ一定条件ノ下ニ外出ヲ許可セラルルコトトセナラバ赤十字國際委員会ノ甚ダ幸トスル所ナリ。

戰地軍隊ニ於ケル傷者及病者ノ状態改善ニ関スル一九二九年七月二十七日ノ寿府条約ハ宗教者ニ対シ俘虜待遇ト異ナルニ関シ衛生部員ニ準セシメ居ルコト御承知ノ通ナリ

赤十字國際委員会ハ右提案ガ日本政府ニヨリ好意的ニ考慮セラレ同委員会ヲシテ之ガ実施ノ為収容所ノ取締規定ニ牴触セサル範囲ニ於テ可能ナルヘキ措置ヲ執ルノ途ヲ開カシメラレンコトヲ切望シテ熄マズ

本書ハ英國及同各自治領、独、伊、米各國ニ送附セラレタリ

俘情第二七一号ノ五

宗職ニ従フ俘虜又ハ抑留者ノ待遇改善方ノ件回答

昭和十八年十月二十二日

俘虜情報局

外務省在敵國居留民関係事務室御中

九月二十二日附居普通第七二三号来照ノ件俘虜又ハ軍抑留者タル宗教関係者ヲ他ノ俘虜又ハ軍抑留者ト区別シテ取扱フコトハ目下考慮シアラズ

俘罰第七號

在朝鮮英國人俘虜ノ所罰ニ関スル件回答

俘虜情報局長官

昭和二十年七月十九日

外務省在敵國居留民関係事務室

鈴木公使殿

七月六日附居普通第三三五號來照首題ノ件左記ノ通回答ス

左記

俘虜軍曹 John Henry Griffith 及俘虜兵 John Broughton ハ共謀ノ上宣誓ニ背キ逃走ヲ企図シ逃走間ニ必要ナル糧食ヲ窃取シタル上逃走シタルモノニシテ夫々國内法規ニ基キ懲役六年及五年ノ刑ニ服役中ナリ尚労働ハ刑務所ニ於ケル各種作業ナリ

一九四五年六月二十二日附外務省宛在軽井沢瑞西公使館口上書假譯

瑞西國公使ハ英國政府ニ於テハ赤十字國際委員會ノ報告ニ依リ朝鮮收容所ニ於テ俘虜數

一九四四年九月九日附瑞西國公使館口上書 C.C. 一、七、四七：E.G.C 訳文

瑞西國公使館ハ帝国外務省ニ対シ英国政府ニ於テハ濠洲人俘虜ニ名一九四二年東西貢ニ於テ斬首セラレタルヤノ報信據スヘキ筋ヨリ聞込ミタル旨申越タルコトヲ通報スルノ光榮ヲ有ス　右俘虜ノ名ハ「バクスター」(Baxter　)及「カツシデイ」(Cassidy)ナルヤノ趣ナルカ倫敦政府ハ其ノ階級及登錄番號ヲ知ラサルヲ以テ之ヲ確認スルコトヲ得ス

英國政府ハ公使館ニ対シ前記俘虜ノ訴訟(若シアリタリトスレハ)及処刑ニ関シ通知ヲ受ケサリシ事実ニ関シ日本国政府ノ注意喚起方依頼越シタリ、同政府ハ俘虜ノ待遇ニ関スル一九二九年七月二十七日ノ寿府條約ノ違反ヲ強ク非難セリ

依テ英國政府ハ右ニ関スル釋明ト俘虜両名ヲ確認シ得ルニ必要ナル情報ヲ要求ス

公使館ハ外務省ニ対シ主務官廳ノ回答ノ回答通達方ヲ依頼シ茲ニ重ネテ敬意ヲ表ス

一九四四年九月九日

一九四五年二月二十八日附瑞西公使館口上書(一、七、四七號)訳

客年九月九日附及十一月十五日附口上書ヲ以テ瑞西公使館ハ帝国外務省ニ対シ英国政府ハ一九四二年夏泰国俘虜ニ対シ斬首セラレタル英国兵ノ氏名ヲ通報スルノ要アリト述ベ右ハ十八名ナルモ其ノ内一名ハ

前記口上書ニ於テ英国政府ハ帝国政府ハ本件関係者ノ処置並ニ処刑ニ関シ何等通告スル処ナカリシヲ不審トスルト同様ニ彼等ノ処刑ニ関シ全ク何等ノ情報ヲ受領セントコトヲ要望セリ

本件ニ関スル返事ナキヲ受ケ公使館ハ本件ニ関シ帝国外務省ノ好意アル注意ヲ喚起セント欲スル共ニ本件ニ関シ英国政府ガ出来得ル限リ速カニ要求セル情報入手ヲ希望セルコト三回ニ亘レリ

公使館ハ本件ニ関シ帝国外務省ノ斡旋ナル仲介ニ対シ深甚ノ感謝ノ意ヲ表スルト共ニ此ノ機会ニ於テ重ネテ茲ニ敬意ヲ表ス

俘警第一〇號

刺殺俘虜ノ状況通報相成度件

昭和二十年四月二十四日

俘虜情報局長官

泰俘虜収容所長殿

今般敵側ヨリ左記俘虜ノ死亡理由ニ関シ照会アリタルヲ以テ同俘虜ハ逃走抵抗等ニ依リ刺殺セラレタルモノナリヤ或ハ逮捕後刑法ニ依リ死刑ニ処セラレタルモノナリヤ或ハ其ノ他ノ事情ニ依ルモノナリヤ等之ガ状況ニ関シ通報相成度

左記

刺殺年月日	収容所名	国籍	階級	氏名	認識票番号
昭和一七、七、二八	泰俘虜収容所	英(濠)	陸軍砲兵伍長	バクスター、ヂー	八五六六二八
〃	第一分所	〃	〃	キャンデイ、ビー	一四二七三七六

[illegible]

注意ヲ喚起シ度シ尚英國政府ハ右刑罰ハ一見苛酷ニ過クルモノト認メラルルニ付其ノ軽減方ヲ希望スルト共ニ本件ニ関スル凡テノ説明ヲ要請ス

又英國政府ハ凡テノ俘虜ニ対シ一九二九年七月二十七日ノ俘虜待遇ニ関スル寿府條約第六十條乃至第六十七條ノ規定ノ適用セラレン事ヲ主張ス

俘罰第一號

函館俘虜収容所英人「バリツゲ」ノ処罰ニ関スル件

回答

昭和二十年一月十三日　　俘虜情報局長官

外務省在敵國居留民関係事務室

鈴　木　公　使　殿

一月六日付貴翰居普通第一號ニ係ル首題ノ件帝國ノ俘虜待遇條約準用ニ関シテハ既ニ屢次

居普通第二六號

昭和二十年一月十五日

外務省在敵國居留民関係事務室

鈴木公使

俘虜情報局長官殿

元香上銀行理事長「グレーバーン」ノ取扱ニ関スル件

本件ニ関スル外務省發在京瑞西國公使館宛公文御参考迄別紙送付ス

居普通第一八号

口上書

帝國外務省ハ元香上銀行理事長「サーヴアンデラーグレーバーンワイン」ノ死亡ニ関スル英國政府ノ通報ニ関スル在京瑞西國公使館ノ七月二四日付GG八、四四、一七、附号口上書ヲ受領シ取調ノ上左記ノ通同公使館ヘ回答シ之ヲ英國政府ニ轉報方依頼スルノ光榮ヲ有ス

昭和二十年一月十五日

記

一、[illegible]

二、英國政府ハ[illegible]

「帝國官憲ノ同人ニ對スル斯ル好意的待遇ニ徴スルモ同人夫人ガ送付セル一、二瓶ノ「ヴイタミン」剤ノ服用ヲ故ラニ妨クルカ如キハ到底有リ得ベカラサルコト明瞭ナリ

三、英國政府ハ「サーグーバーン」ノ死後数日ヲ経タル遺骸ヲ抑留所ヨリ「グレーバーン」夫人ニ返還セラレタリト主張スルモ之亦事実ニ反ス同人ハ昭和十八年八月二十一日（土曜日）死亡シ其ノ遺骸ハ翌二十二日（日曜日）抑留所當局及抑留者代表ヲ経テ夫人ニ引渡サレタルモノナリ

四、而シテ其ノ際同夫人ニ交付サレタル品目ハ別紙記載ノ通合計七十五点ニシテ「ヴィタミン」錠剤ヲ「グレーバーン」ニ與ヘ入シテ封緘ノ儘夫人ニ返還シタルカ如キ事実ナシ刑務所其ノ他ノ官廳ニ於ケル私品ノ取扱ハ極メテ厳重ニシテ受刑者ノ出所又ハ死亡等ノ際返還スル物品ニ付テハ後日ノ紛争ヲ避クル為細大洩ナク品目ヲ記載シ受領者ノ照合點検ヲ求メ相違ナキヲ確メシメ其ノ書類ヲ保管スルモノニシテ領収證ニ記載シタルモノ以外ノ物品ハ授受セラレタル次第ナリ尚當時ノ抑留所係官ハ取渡品目表ト現品ト符合セサリ

シ例ハ當テナキ旨言明シ居レリ

五之ヲ要スルニ英國政府ノ本件抗議ハ其ノ抗議書ニ記載セラルルカ如ク赤十字國際委員會其ノ他ノ信頼スヘキ機関ヨリノ情報ニ非ス其ノ鮮カラサル部分ハ想像ト揣摩臆測ニ基クモノニシテ全ク根據ナク從テ帝國政府ニ於テハ之ヲ受諾スルコトヲ得ズ（以上）

條三普通二六一號

昭和十七年三月二十日

外務次官

俘虜情報局長官殿

英國政府ヨリ俘虜及抑留者發受ノ書翰送達業務設置方申出ニ関スル件

本件ニ関シ今般本部ニ於ケル英國ノ利益代表國タル「アルゼンチン」國ノ在京代理大使ヨリ別添写ノ通、三月二日附書翰ヲ以テ申出アリタルニ付右書翰（別紙甲號）並ニ訳文（別紙乙号）茲ニ送付ス

追而英國側書翰送達業務設置ノ提案ハ一方日本國及日本占領地域ニ於ケル英國人俘虜及抑留者発受ノ書翰ヲ他方ハ英國軍ニ収容セラレ居ル日本人俘虜発受ノ書翰ヲ目的トシ英帝國内ニ抑留セラレ居ル邦人発受ノ書翰ヲ取リ上ケ居ラス甚タ先方ニノミ都合ヨキ提案ナルニ付別紙（丙號）通回答シ置キタリ

乙號

三月二日附在京「アルゼンチン」國大使來翰訳文

以書翰啓上致候陳者本使ハ本國政府ノ訓令ニ基キ貴大臣ニ対シ左ノ通リ通報スルノ光榮ヲ有シ候

英國政府ハ日本國政府カ相互互譲ノ基礎ニ於テ日本國及日本占領地域ニ於ケル英國人俘虜

置ニ抑留者発受ノ書翰及英國軍ニ收容セラレ居ル日本人俘虜発受ノ書翰ノ蘇聯邦経由送達ノ爲ノ業務設置ニ協力スルノ意嚮アリヤ否ヤニ付テノ情報ヲ要請シ居レリ

本件業務ハ萬國郵便條約第四十九條所定ノ條件及俘虜ノ待遇ニ干スル寿府條約ノ條件ニ從ヒ遂行セラルヘキモノナリ

蘇聯邦当局ハ國際郵便規則ニ從ヒ書翰送達ニ完全ニ協力スルノ用意アルモ本務ニ依ルホ已、送達ハ之ヲ承ナル旨指摘セリ

俘虜ニ干スル「インテナー」情報局（The Xanthi Bureau of Information）ノ発受又ハ仲介スル書翰モ又本業務ニ含マルルモノトス

日本当局ハ抑留者及俘虜ノ居住スル收容所名ヲ発表スル迄右收容所ニ書翰ヲ転送スル爲日本國ニ於ケル情報局ノ宛名ヲ通報セラレタシ、日本国政府カ右ヲ希望セラルルニ於テハ英國当局ノ設置セル「ザンティ」情報局ノ宛名ヲ通報致スヘシ

本使ハ茲ニ閣下ニ向テ重ネテ敬意ヲ表シ候

敬具

丙号

條三普通第一六號

以書翰啓上致候陳者本年三月二日附貴翰G第二十五號ヲ以テ御申越ノ趣敬承スルノ光榮ヲ有シ候

英國政府ノ書翰発送達業務設置ノ提案ハ一方ニハ日本國及日本占領地域ニ於ケル英國人俘虜及抑留者発受ノ書翰ヲ他方ハ英國軍ニ收容セラレ居ル日本人俘虜発受ノ書翰ヲ目的トシ英帝國内ニ抑留セラレ居ル邦人発受ノ書翰ヲ含ミ居ラス相互ノ利益ニ付全ク權衡ヲ失シ居ル提案ト認メラルルヲ以テ帝國政府ハ右提案ヲ此儘受諾スルコト能ハサルニ付右ノ趣英國政府ニ御傳達相成度候

本大臣ハ茲ニ重ネテ貴下ニ向ツテ敬意ヲ表シ候

敬具

昭和十七年三月二十日

亜爾然丁共和國臨時代理大使
「エラスト・エメ・ヴィリヤ」貴下

外務大臣　東郷茂徳

俘情第五號ノ七

俘虜郵便ニ關スル件

昭和十八年二月二十二日

俘虜情報局長官

外務次官　殿

二月十八日附居普通第一三八號來照首題ノ件左記ノ如ク加奈陀政府ニ傳達方相煩度

記

一、「グリンプスホルム」號ヨリ送達セラレタル俘虜宛ノ郵便物ニシテ十一月ニ本人ニ入手シ得タルハ之カ檢閲並ニ轉送ニ要セシ最小限ノ時間ナリ此最小限ノ時間ヲ以テ本人ニ手交セラレタル帝國ノ努力ニ對シテハ加奈陀政府ハ寧ロ感謝スヘキナリ

二、尚迅速ニ送達スル爲爾今俘虜宛郵便ハ左ノ件ヲ遵守センコトヲ要望ス

1、字數ヲ制限シ用件ノミヲ簡單ニ記述スルコト

2、字體ヲ明瞭ナラシムル爲「タイプライター」等ヲ使用スルコト

3、宛名ハ俘虜情報局氣付トセス俘虜收容所宛トスルコト

4、俘虜宛郵便行嚢ニ俘虜及抑留者以外ノ者宛郵便物混入セシメサルコト

5、爲シ得レハ檢閲ヲ容易迅速ナラシムル爲日本文ヲ使用スルコト

居書通第一三八號

昭和十八年二月十八日

在敵國居留民関係事務室
鈴木公使

俘虜情報局長官殿

在香港加奈陀人俘虜ニ對スル郵便物配布ニ関スル件

加奈陀利益代表タル瑞西國公使館ヨリ今般一月二十三日附口上書ヲ以テ別紙譯文ノ通申越シタルニ付テハ委細右ニテ御了悉相成本件回答振ニ就キ御意向御回示相煩度此段申進ス

CC 一、五、五

一九四三年一月二十三日

在京瑞西公使館発日本外務省宛口上書

在京瑞西國公使館ハ帝國外務省ニ對シ其ノ平素御好意ニ信頼シ左記事情ニ付御依頼スルノ光榮ヲ有ス

香港ニ於ケル加奈陀人俘虜カ母國ヨリノ郵便ヲ客年十一月ニ入リ入手セル趣ヲ以テ加奈陀政府ヨリ該郵便物ハ交換船(Gripsholm)ニテ送付セラレタルモノナルヲ以テ八月中ニハ既ニ配達セラレ居ルヘキモノナリト注意越セリ

加奈陀政府ハ此ノ郵便物遅延ノ理由並ニ十一月以降加奈陀人俘虜ニ宛テラレタル他ノ郵便物ガ主務官憲ノ手許ニ到達セルモノアラバ之等ハ受信人ノ手ニ渡サレタルヤ否ヤ承知致シ度要望シ居レリ

就テハ瑞西公使館ハ右加奈陀政府ノ指摘セル諸點ニ對シ日本政府ノ明確ナル回答ヲ得バ幸甚ナリ

瑞西公使館ハ日本外務省ニ向ツテ最高ノ敬意ヲ表ス

俘書通第七七三號

昭和十九年十一月二十二日

外務省在敵国関係事務室
鈴木公使

俘虜情報局長官殿

台湾ニ於ケル俘虜及抑留者ノ通信ニ関スル件

今般在京瑞西公使館ヨリ赤十字国際委員会代表者ノ台湾訪問ニ関スル報告ニ依レバ同地ニ在ル英国人俘虜ハ英国ヨリノ通信ヲ受取ルマデニ十二月乃至十八月ヲ要シ未ダ通信ヲ受取ラサル者サヘアルニ付関係当局ニ対シ右促進方斡旋願度キ旨並ニ同俘虜及抑留者ハ大東亜地域ニアル其ノ家族トノ通信ニモ困難ヲ感シ居ル趣ヲ以テ英国政府ハ此等ノ者カ定期的ニ通信シ得ル様希望シ居ルニ付関係当局ニ対シ斡旋方願度キ旨申越シタリ就テハ現在ノ交通状況ニ鑑ミ郵便物ノ遞送ニハ幾多支障アルコト存スルモ前記事実ニ付一応御取調相成度尚御差支ナキ限リ右要望ニ添フ様御取計相煩度依頼申進ス

俘通第五六一號

台湾ニ於ケル俘虜ノ通信ニ関スル件　回答

昭和十九年十一月二十八日

俘虜情報局

外務省在敵國居留民関係事務室　御中

首題ノ件ニ関シ曩ニ赤十字國際委員會ヨリ申越シアリ別紙ノ如ク通牒シ置キタルニ付参考迄送付ス

俘通書五五二號

英國人及和蘭人俘虜宛郵便物ニ関スル件回答

昭和十九年十月二十一日　俘虜情報局

第十三軍參謀長殿

十月十九日附參謀第三九七號ニ依ル照會ノ件左記通回答ス

記

一、(十月末現在) 俘虜收容所ニ收容中ノ俘虜郵便物ハ現在迄到着シタリ七月及八月ノ約一ヶ月ニ於ケル俘虜宛郵便受付通数左ノ如シ

(參考用)

函館俘虜收容所	三、五六八通	二、七五五通
東京俘虜收容所	一一、九六七通	八、三四四通
大阪俘虜收容所	四、〇三三通	六、五八七通
善通寺俘虜收容所	二、〇三六通	二、〇三六通
福岡俘虜收容所	八、一九二通	一五、三三四通
朝鮮俘虜收容所	二、一五七通	一、二九五通
台湾俘虜收容所	六、八八五通	七、七二八通

二、善通寺及福岡俘虜收容所ニ於ケル英國人及和蘭人俘虜宛郵便物到着ノ不足ハ極僅少ノ一部分ノ者ニシテ其等ノ内多クハ日本軍占領地ニ家族ヲ有スル特殊事情アル者ナル故カカル俘虜家族ニ対シテハ当局ヨリ現地関係機関ニ照會調査シ目下通信ノ圓滑ヲ期シテアリ

飜譯文

参照第二三九號

一、日本ノ手中ニ在ル俘虜宛通信ニ関スル件

謹啓陳者外務省ハ本代表部宛一九四三年八月十日附書面ヲ以テ日本ノ手中ニアル俘虜及非戦斗員抑留者宛通信ニ関スル御通知ヲ致シ居ラレ申候即チ貴局又ハ外務省ヨリ名簿御通知齊ノ俘虜及抑留者ニ宛タル通信ハ必ズ間違ヒ無ク其ノ収容所宛トシ未ダ名簿ノ送付ヲ受ケ居ラザルモ日本側ニ収容中ト信ゼラレル者ニ対シテハ之ヲ必ズ東京日本赤十字社宛送付致ス可キ旨ノ御下命ニ接シ居申候

右ニ関シ香港代表アール、ジンデル氏ヨリ只今入手仕候書面ニ依レバ香港ニ於テ俘虜ガ實際ニ収容サレテ居ル個別的収容所名等不得故ニ前項ノ規定ハ香港ニハ適用セラレアルモノト解釋致シ居候以上ノ理由ニテ彼ハ香港ヨリ日本ニ収容中ノ俘虜宛通信ハ之ヲ日本赤十字社宛付ト致ス可キモノト看做シ居申候

右事情ニ付香港代表ノ考ヘ居リ候方法ガ正當ナリヤ或ハ日本ニ於ケル収容所不明ノ俘虜宛通信ハ之ヲ貴局宛御送附申事ガ正當ナリヤ至急御回答給度此段及懇請申候

昭和十九年二月十九日

赤十字國際委員會
駐日代表部

俘虜情報局殿

俘通第一三九號

俘虜宛通信ニ関スル件

昭和十九年三月十一日

赤十字國際委員會駐日代表部御中

俘虜情報局

貴翰参照第二三九號ニ係ル首題ノ件左記ノ通回答ス

記

一、俘虜宛通信ニ關シテハ貴部來意ノ如ク一九四三年八月十日付外務省ヨリノ通牒ヲ適用セラレ度香港ヨリ内地ヘ移管ノ場合ハ其都度赤十字國際委員會宛通報スルニ付貴部ヨリ香港代表ヘ移管俘虜名簿ヲ通報ノ上俘虜家族ニ傳達セラレ俘虜家族ヨリ新收容所宛通信ヲ直送スル如ク取計ラレ度

譯文

參照第三八八號

一、極東發米國行郵便物ニ關スル件

謹啓陳者壽府委員會ヨリ下記内容ノ電報ヲ入手仕候即米國赤十字社ハ壽府委員會ニ對シ極東ヨリノ郵便物輸送ハ不活潑ナル旨通知致來リ申候

故ニ壽府委員會ニ於テハ俘虜及抑留者カ差出ス郵便ハ特種ノ用紙ヲ使用セバ或ハ輸送ヲ速カニシ且ツ輸送上便宜ナラシメサルヤヲ考慮致シ居候

壽府委員會ハ右ニ對スル貴局ノ御意見御洩シ被下候ヘハ感謝ノ至リニ存候而シテ本代表部宛御意見御通知被下候ヘハ幸甚ノ至リニ存奉候、申迄モ無ク本代表ハ何時ナリトモ貴局係官ト右ノ提案ヲ御協議申上ル用意ヲ有シ申候

尚ホ壽府委員會ハ右提案ハ日本政府ヨリノ提議ニ係リ在ベルン日本公使ヨリ傳達ナサレタル電信ニ關シ目下壽府ニ於テ考究中ノモノトハ全然別個ノモノナル旨申添居候

昭和十九年六月十四日

赤十字國際委員會駐日代表部

俘虜情報局殿

俘通第四七二號

東亜ヨリ米國宛ノ郵便物ニ関スル件回答

昭和十九年八月九日

俘虜情報局

赤十字國際委員會駐日代表部 御中

六月十四日参照第三八八號ニ係ル首題ノ件左記ノ通リ回答ス

追テ「極東」ノ文字ハ使用セザルコト、ナリ居ル等ニ付為参考

記

帝國ノ管理スル俘虜及軍抑留者ノ差出ス郵便ハ其ノ原識明瞭ナルヲ以テ貴部来旨ノ如キ特種用紙ヲ使用スルモ逓送上ニ大ナル期待ヲナシ得サルモノト思考ス

居普通合第二二二號

昭和十九年四月四日

外務省在敵國民留民関係事務室

鈴木公使

俘虜情報局長官殿

俘虜抑留者郵便ニ日附記載許可方ニ関スル件

本件ニ関シ客年十一月二十日附居普通合第八三八號往信ヲ以テ御意向御照會ノ上同十二月二十六日附在京瑞西國公使館宛「本邦權下ニ於ケル俘虜竝ニ抑留者カ其ノ發信ニ日附ヲ記載スルヤ否ヤハ自由ニシテ帝國政府ニ於テハ之ニ對シ何等制限ヲ加ヘタルコトナキ」旨回答シ置キタル處今般同館ヨリ米國政府ハ右通報ニ拘ラス收容所長ノ中ニハ郵便ニ日附ヲ附セサルヘキ旨命令セルモノアリ得ヘシト思考スル旨日本政府ニ通告方更ニ要請越シタル趣ヲ以テ果シテ收容所長ハ漏ナク日附記載許可方ノ帝國政府ノ訓令ヲ得居ルヤ否ヤ承知シ度、

旨申出タリ依而右ニ對シテハ前顯往信ノ内容ヲ繰返スト共ニ各收容所及抑留所ハ右ヲ了知シ居ル旨回答シ置キタルニ付右御了知相成度

俘通第二二四號

俘虜及軍抑留者郵便ニ日附記載許可ニ關スル件

昭和十九年四月十日

俘虜情報局長官

各俘虜收容所長
軍抑留所長 殿

嚢ニ米國政府ヨリ首題ノ件ニ關シ要請アリタルニ付別紙ノ通回答シ置キタルヲ以テ参考迄ニ別紙写送付ス

追テ當局トシテハ日附記載方ヲ禁スル意図ハ無之ニ付為念

俘情第二〇號ノ九二

俘虜抑留者郵便日附記載ノ件

昭和十八年十一月二十四日

俘虜情報局長官

外務省在敵國居留民関係事務室
鈴木公使 殿

居普通合第八三八號ノ件左記ノ通ニ付可然御回答相成度

記

一、俘虜抑留者通信文ニ日附ヲ記載スル件ハ俘虜（抑留者）ノ自由ニシテ何等制限ヲ加ヘタルコトナシ

二、今次米國政府ノ申出ニ對シ茲ニ更メテ日附記載方ヲ慫慂スルノ意思ナシ

普通　亜七〇號

一　東亜圏内ニ於ケル俘虜及抑留者宛郵便物ニ関スル件　回答

昭和十九年十二月二日

俘虜情報局

赤十字國際委員會駐日代表部　御中

十一月十六日附参照第六四六號ニ依ル首題ノ件左ノ通回答ス

左記

一、第一號ノ特別印刷セル俘虜郵便葉書及第三號寿府来電第一四九二號ノ二ノ濠洲赤十字社ノ航空便ニ関シテハ頭書ノ必要上此ノ様式等ニ從來ノ郵便物ト異ナル点ヲ承リ度

尚表紙及切手ノ貼附ハ郵便配達ノ遅速ニ何等関係無之ニ付申添フ

二、第二號ノ米國赤十字社發送ノ小包ニ就テハ十月二十五日ヨリ数次ニ亘リ当局ニ到着シ目下計一六〇個保管シアリテ之ニ関シテハ近ク外務省ヨリ瑞西公使館ヲ介シ米國宛回答アル筈ニ付之カ趣旨ニ則リ処理ノ豫定ナリ

譯文

参照第六四六號

東亜圏内ニ於ケル俘虜及抑留者宛郵便物ニ関スル件

謹啓陳者寿府委員會ヨリ左記ノ件ニ関スル電報ヲ入手仕候

寿府来電第一四九八號

左記

一、米國及英國赤十字社ハ検閲ヲ容易ナラシムル為メ及収容所抑留所等ヘ配達ヲ容易ナラシムル為メニ東亜圏内ニ於ケル俘虜及抑留者ヘ差出ス可キ通信ニ対シ特別ニ印刷セル葉書ノ使用方ヲ一般ニ奨勵致候ヘ第一回目ノ葉書ガ一九四四年七月中ニ米國ヨリ發送致サレ申候就テハ寿府委員會ハ左記御通知方懇請仕候

(イ)　左記各國ヨリ葉書発送月日並ニ到着月日

北米合衆國

聯合衆國（英國）

濠洲

亜佛利加

印度、

歐洲各國及其他

(ロ) 最初ニ到着セル葉書ノ月日（到着月日）及ビ之カ発送國名

二、米國赤十字社ハ一九四四年八月以降毎月 Teherian（テヘラン） Trans Siberian（シベリヤ）經ヲ郵送致候

ハ一ニ該小包ノ宛先ハ

(イ) 主ナル收容所及抑留所ノ代表者宛ニ之有候

右ニ関シ壽府委員會ハ收容所及抑留所ヘ到着セル小包数並ニ到着月日ヲ承知致度存候

(ロ) 本代表部ニ於テハ現在迄ニ前記小包ヲ受領致シ居ラズ候

壽府來電才一四九二号ノ二

(イ) 濠洲赤十字社ニ於テハ一九四四年七月以降航空郵便サービス開始仕候

壽府委員會ハ是等郵便カ日本ヘ到着ナシツヽ之有候哉、若シ出来得レバ到着通數並ニ

到着月日ト共ニ御通知被下候ヘバ奉深謝候

以上

(ロ) 尚濠洲赤十字社ハ濠洲ヨリノ郵便物ニ張紙及切手ヲ貼附スル爲メニ收容所及抑留所

ヘノ配達ヲ必要以上ニ遅滞致サセ申候哉御伺申上候

本代表部ハ前記照會事項ヲ関係当局ヨリ御取寄セ被下候ヘバ感謝ノ至リニ奉存候而シテ前

記各項ニ対シ御通知被下候事ニ対シ前以テ御礼申上候

敬具

昭和十九年十一月十八日

赤十字國際委員會

駐日代表部

俘虜情報局殿

居普通第一八七號

昭和二十年三月二十日

外務省在敵國居留民関係事務室

鈴木公使

俘虜情報局長官殿

在蘭印俘虜及非戰闘員抑留者並ニ在「タイ」國
俘虜ノ通信ニ関スル件

本件ニ関シ今般別紙書翰写及同假譯文ノ通在京瑞西國公使ヨリ外務大臣宛請願シ来レルニ付委細別紙ニテ御了承ノ上右回答方ニ関シ何分ノ儀御回示相煩度依頼申進ス

假譯文

以書翰啓上致候陳者客年十二月二十日附同上書ヲ以テ外務省ニ對シ在「スマトラ」俘虜及非戰闘員抑留者及在「ジャワ」非戰闘員抑留者ヨリ英國向未タ通信ノ到達シ居ラサル旨通

報スルノ光榮ヲ有シ候

最近ノ通報ニ依レハ英國政府ハ「クリスマス」前後ニ回ニ到達セル通信六万通中ニ在蘭印非戰闘員抑留者ヨリノ信書無之旨申越候如斯三年以来音信全然不通ナルニ依リ抑留者家族ノ憂慮甚タシキモノ有之候尚英國政府ハ在「ジャワ」俘虜ノ通信ハ右二回ノ郵送ニ含マレ居ラス一九四四年七月英國ニ到達セルモノヲ最後ノ通信トスル旨陳述致候在「タイ」國俘虜ノ通信ニ関シテハ同國カ通信ヲ印刷葉書ニ限定スル唯一ノ國ニシテ他地方ニ於テハ若干俘虜ハ少クトモ葉書又ハ手紙ヲ手記スルコトヲ許可セラル旨ヲ特記致候手紙ノ手記ヲ禁止スルハ何等カ不幸ナル誤解ニ基クモノト思考致候一九四三年七月二十日附居普通第二四一号ヲ以テ外務省ヨリ轉達セラレタル一九四三年 月二十一日「俘虜待遇規則」ノ第三十條ニ依レハ俘虜ノ通信ニ對シテハ白紙ノ形式ヲ規定セラレ居　候依テ「タイ」國収容所カ右規則ヲ實行シ居ラストセハ右ノ理由ヲ承知致度候英國政府モ本件ニ関シ本使ヨリノ説明ヲ期待致候

前述ノ事情ニ鑑ミ本使ハ閣下ニ向テ帝國政府ニ於カレテハ英國政府ノ希望ニ副ヒ「ダホ」國乃至ハ舊蘭印ニ於ケル日本權內ノ俘虜及非戰鬪員抑留者ノ通信ニ關スル現行制度ヲ改善スルノ用意アリヤ又其ノ方法ニ付回示セラレンコトヲ要請致候

閣下ノ御回答ニ對シ豫メ表謝旁本使ハ玆ニ閣下ニ向テ重ネテ敬意ヲ表シ候

昭和二十年三月三日

於東京 瑞西公使

重光外務大臣 閣下

俘通第六一號

在舊印俘虜及非戰鬪員抑留者並ニ在「タイ」國俘虜ノ通信ニ關スル件回答

昭和二十年四月十七日

俘虜情報局

外務省在敵居留民關係事務室 御中

三月三十日附居普通第一八七號ニ係ル首題ノ件左ノ通回答ス

左記

一 瑞西國公使ヨリノ請願ニ舊蘭印ニ於ケル日本權內ノ俘虜及非戰鬪員ヨリ其ノ家族ハ通信ヲ受ケアラストアルモ該地區ノ俘虜收容所及軍抑留所ハ左ノ如ク郵便物ヲ發送シアリ

昭和十九年	爪哇俘虜收容所	爪哇軍抑留所	スマトラ軍抑留所
三月	一〇、八五二	不詳	不詳
五月	一〇、四一九	不詳	不詳
六月	不詳	七、一二四	不詳
七月	不詳	一三、三〇四	不詳
八月	一六五	不詳	不詳
九月	不詳	二〇、四六八	七、一一〇
十月	一二、三三一	一四、四九三	六、一七五
十一月	一三〇	不詳	一二五
十二月	不詳	不詳	三八

二、同シク同文中ニ「俘虜待遇規則」ノ第三十條ニ依レハ俘虜ノ通信ニ對シテハ用紙ノ樣式ヲ規定セラレ居リトアルモ「俘虜取扱細則」第三十條ニハ斯ル規則ナシ

從ツテ乘乃至舊蘭印ニ於ケル日本權内ノ俘虜及軍抑留者ノ通信ニ関スル現行制度ヲ改善スルノ要ヲ認メス

居普通第八一二號

昭和十八年十月二十三日

外務省在敵國居留民関係事務室

鈴木公使

俘虜情報局長官殿

勞働災害ノ罹災者タル俘虜ニ對スル賠償ニ関スル件

在本邦瑞西國公使館ヨリ米國政府ノ要請ニ基キ米國ニ於ケル日本俘虜ニシテ勞働中負傷セル者ニ對シテハ其ノ再ヒ勞務ニ從事シ得ル迄賠償トシテ一日四十仙ノ高ヲ支給シ居ル處帝國ニ於テモ同樣ノ待遇ヲ米國俘虜ニ對シ與ヘラルルヤ若シ然リトセハ其支給額ハ何程ナリヤ照會越シタルニ付何分ノ儀御回示相成度此段申進ス

居普通第八三三號

昭和十八年十月三十日

外務省在敵國居留民関係事務室

鈴木公使

俘虜情報局長官殿

勞働災害ノ罹災者タル抑留者ニ對スル賠償ニ関スル件

十月二十三日附居普通第八一二號拙信ヲ以テ勞働災害ノ罹災者タル俘虜ニ對スル賠償ニ関

シ照會申進シ置キタル處今般米國政府ヨリ更ニ占領地ニ於ケル抑留者ニ付テモ賠償範圍及有無及若シ有之ハ其支給額併セテ回報方要請越シタルニ付冒頭拙信ノ分ト共ニ御回答相煩ハシ度シ

追テ内地及朝鮮ニ於ケル抑留者ニ付テハ勞働シ居ラサル旨在本邦瑞西國公使館ヨリ米國政府ヘ報告シタル趣ニ付為念

俘情第六號ノ三六

勞働災害ノ罹災者タル俘虜ニ對スル賠償ニ關スル件回答

昭和十八年十月二十九日

俘虜情報局

外務省在敵國居留民關係事務室 御中

十月二十三日附居普通第八一二號来照首題ノ件左記ノ通回答ス

左記

一、勞働中負傷シタル者ニ對シテハ再ヒ就勞スル迄就勞中ト同額ノ賃金ヲ給ス

二、勞働中ノ負傷ニ基キ不具トナレル者又ハ死亡者ニ對シテハ邦人勞務者ト同様ニ救濟シアリ

三、前號ノ場合ニ於ケル米國政府ノ態度承リ度

條一一秘合第一六五四號

昭和十七年十一月十一日

外務次官

俘虜情報局長官殿

米國人俘虜及抑留者ニ対スル救恤品補給ニ関スル米國政府ヨリ申入ニ関スル件

今般在京瑞西公使ヨリ米国人俘虜及抑留者ニ対スル救恤品補給方ニ関スル米國政府ノ提案

ニ付別添訳文ノ通リ申越シタルヲ以テ右茲ニ送付ス委曲右ニテ御了悉相成度シ

本信送付先　陸軍、海軍両次官　俘虜情報局長官

瑞西公使発（九月二十五日附）大臣宛書翰訳文

以書翰啓上致候陳者九月九日附貴翰第409/T3ニ関シ帝國軍麾下ニアル米國人抑留者及俘虜ニ対スル糧食補給ニ関スル左ノ米國政府回答ヲ閣下ニ通告スルノ光栄ヲ有シ候

米國政府ハ日本政府カ寿府俘虜待遇條約第三十七條ニ規定シアル食料及衣服ヲ内容トスル小包ノ受領及ビ送達ヲ嘗テ拒否シタルコトナク将来ニ於テモ之ヲ拒否セズトノ声明ヲ了承シ且交換船ニ托送ノ米國赤十字社ヨリ送付セラレタル補給品ガ日本比律賓並ニ其他ノ日本占領地域ニ於ケル米國人抑留者及俘虜ニ分配セラルヘシトノ公式承認ヲ與ヘラレタルニ対シ満足シ居レリ

米國政府ハ又日本政府カ戦略的理由ニ因リ当分ノ間船舶ノ西太平洋航海ノ拒否ヲ持續スルト共ニ交換船以外ノ船舶ヲ「コロシンソ」マル「ケス」ヘ派遣スル意圖ナシトノ声明ヲ了承セリ

然ルニ米國政府ハ既ニ比律賓群島ヘ送付セラレタル補給品ヲ以テシテハ同地ニ於ケル米國人抑留者並ニ俘虜ノ継続的要求ヲ充分ニ満足セシムル為量ニ於テ不充分ナルコトヲ指摘セント欲スルモノニシテ更ラニ比島其他ノ日本占領地域ニ於テ日本官憲ニ依リ抑留セラレタル米國人ノ継続的要求ニ対スル充分ナル補給品ヲ送付スル為ニハ交換船ハ充分ナル積載容積ヲ有セサルヲ以テ米國政府ハ茲ニ更メテ日本政府カ比島ニ於テ日本ノ保護下ニアル抑留米國人ニ対スル配給ノ為ニ当該地方物資購入ニ要スル資金ヲ米國ヨリ送付シ得ベキ中立赤十字社國際委員會代表ノ任命ヲ許容セラレンコトヲ要望ス

米國政府ハ日本政府カ現在中立國船舶ノ西太平洋航行ヲ拒否シツツアル戦略的理由ノ解消スルト共ニ日本政府カ米國ヨリノ補給船ニ対シ安全保證ヲ與ヘラレシムルコトヲ確信ヲ以テ期待シ居ルモノナルカ右時期ノ到来スル迄ハ比島ニ於ケル中立赤十字社代表ノ使用ノ為資金ヲ供給シ以テ日米両國政府ガ相互的ニ俘虜並ニ常人抑留者ヘノ適用ヲ同意セ

ル處置ニ基クベキ補給品ハ補給タルヲ再言スノ上ヲ日本ノ保護下ニアル在比抑留米國人ノ
爲ニ維持シ之ニ給與スヘキ方法ヲ開設スルヨリ外途ナキモノナリ。尚右ニ関聯シ米國政府ハ
米國人ハ慣用食料ハ日本人ト異ナル故ヲ以テ日本式給食ニ加ヘ特別ナル米國式食料ノ補
給ヲ要望シツツアルモノナルコトヲ指摘致度
米本土及「ハワイ」ニ於テハ抑留セラレ居ル日本人ニ対シ赤十字國際委員会代表ハ救恤
品ノ配給ノ自由ニ行フコトヲ許可セラレ居ル事実ニ対シ日本政府ノ注意ヲ喚起シ度シ
米國政府ハ日本政府ガ今後本件ニ関シ完全ニ相互的ナル取扱ヲ認メラレル御方針ナリヤ
否ヤ至急承知致度シ
本國政府ノ本提案ニ対スル帝國政府ノ御意嚮御回示相煩度本使ハ茲ニ重ネテ閣下ニ対シ深
甚ナル敬意ヲ表シ候
敬具

條三普通第一三一一號
昭和十七年十月二十八日
俘虜情報局長官殿
外務次官

瑞西赤十字社ヨリ申出ノ比島抑留米人ニ対スル
救恤金送付許可ニ関スル件

本件ニ関シ十月二日附書翰ヲ以テ在京瑞西國公使ヨリ外務大臣宛別紙ノ通リ申越来リタル
ニ付右来信訳文茲ニ送付ス委細右ニテ御承知相成度、尚右資金ハ受理差支ナキ場合ニハ之
ガ処理ハ現地軍当局ノ指導ノ下ニ比島赤十字社ヲシテ之ニ当ラシムルニ於テハ便宜大ナルベ
シト被存ラルルモ先方ヘ回答ノ都合モアルニ付右ニ関スル貴見何分ノ儀御回示相煩度、追
テ米國赤十字社ヨリ瑞西公使ヲ通シ同額ノ資金送付ノ申出アリタルヲ以テ右ハ別口ノモノ
ナリヤ否ヤ問合中ナルニ付回答アリ次第通報スベキモ不取敢申進ス

十月二日附在京瑞西公使發大臣宛書翰譯文

以書翰啓上致候陳者米國赤十字社ハ在比島抑留者救恤ノ為「マニラ」ニ二万五千弗送金方希望シ居リ瑞典赤十字社ニ對シ「マニラ」ニ設置セラレ居ル救恤團体ヲシテ處理セシムル爲右資金送付方依頼越シタル旨通報スルノ光榮ヲ有シ候

尚本件御承諾ノ御回答ニ接スル場合ニハ右資金送達方法ニ關スル日本政府側ノ御希望並ニ御意見承知致度候

本使ハ茲ニ重ネテ閣下ニ對シ敬意ヲ表シ候

條二秘第一三四九號

昭和十七年十一月十日

外務次官

俘虜情報局長官殿

在比島米國赤十字社ニ救恤金送付方ニ關スル件

本件ニ關シ今般在京瑞西國公使ヨリ別紙ノ通リ申越シタルニ付右書翰同譯文茲ニ送付ス委細右ニテ御了悉相成度

追ツテ右瑞西國公使ヨリノ申出ニ依レハ米國赤十字社ハ「ウオルフ」ヲ會長トスル在比島米國赤十字社宛其ノ事業ヲ継続セシムル為資金ヲ送付シタキ趣ノ處右ハ聞スル所ニ依レハ比島ニ於ケル米國赤十字社ハ既ニ解散セラレ目下新タニ組織セラレタル比島赤十字社ガ變ツテ救恤事業等ニ從事シ居ル趣ニ付瑞西國政府ニ對シテハ右事情ヲ説明シ資金ノ送付許可ハ比島赤十字社ニ充ツル場合ハ之ヲ許可スヘキ旨回答スルヲ適當ト思考セラ　ル處右ニ關スル貴見何分ノ儀御回示相煩度

九月十二日附在京瑞西國公使來翰譯文

以書翰啓上致候陳者今般米國國務省ヨリ米國赤十字社カ「トーマス、ウオルフ」

其ノ會長トスル在比島米國赤十字社ニ對シ「マニラ」及其附近ニ於ケル米國人抑留者ニ對スル救恤事業ヲ繼續セシムル爲之ニ二萬五千弗ヲ送付シ度キ希望シ居ル旨通報シ來リタル趣本國政府ヨリ傳達越申候

付而ハ本使ハ右資金ヲ在「マニラ」元瑞西領事ヲ通シテ送付シ以テ「ウォルフ」氏ノ團體ニ對シ其ノ適當ト認ムル方法ニ依リ右經費ヲ使用セシメ度ク存セラルニ付テハ之カ可否等ニ關スル貴見御回示相成度右御依頼旁本使ハ茲ニ閣下ニ對シ深甚ナル敬意ヲ表シ候

敬具

發三普通第四二五號

口上書

帝國外務省ハ帝國政府ニ於テハ米國人俘虜及抑留者救恤ノ爲ノ赤十字船派遣ニ關スル米國赤十字社ノ提議ヲ審議シタル結果左記決定ニ到達セル旨赤十字國際委員會代表ニ通知シ在寿府赤十字國際委員會ヲ通シ之ヲ米國赤十字社ニ傳達方依頼スルノ光榮ヲ有ス

昭和十七年八月三日

記

曩ニ英國政府ハ米國政府ヲ通シ赤十字船派遣ニ關シ帝國政府ノ承認方ヲ要求シ來リタルカ日本政府ハ太平洋ニ於ケル交戰状態ニ鑑ミ斯クトモ當分ノ間ハ該船ニ對スル航行安全ヲ保障スルコト不可能ナリト答ヘタルカ日本政府ハ今尚右方針ヲ變更スル理由ヲ認メス

帝國政府ハ米人俘虜及抑留者ニ對シテハ國際法ノ原則ニ基キ最モ公正ナル待遇ヲ與ヘ居ルヲ以テ彼等ニ對シ特別ノ救恤ヲ要スルモノト認メス但シ帝國政府ハ米國赤十字社カ若干ノ救恤ヲ要望スルコトニ對シ強テ反對スルモノニアラサルニ付將來實現セラルヘキ第二次交換船利用ニ依ル救恤品送付方異議ナシ

居欧合第一七七七號

昭和十七年十二月二十八日

外務次官

俘虜情報局長官殿

将校俘虜ノ給與ニ関スル米國政府ノ提議ニ関スル件

本件ニ関シ五月二十日附條三普通合第八二五號ヲ以テ申進置キタルトコロ今般再應米國政府ノ提案ニ接シ別紙寫ノ通陸軍次官宛申進シタルニ付委細同寫ニテ御承知相成度シ

居欧第一四八九號

昭和十七年十二月二十八日

外務次官

陸軍次官殿

将校俘虜ノ給與ニ関スル米國政府ノ提議ニ関スル件

本件ニ関シ六月二十三日附陸亜普第四八五號貴信御回示ニ基キ在本邦瑞西國公使宛回答シ置キタルトコロ今般別紙寫ノ通同公使ヨリ米國政府ノ再應ノ提議ヲ申越セリ

就テハ委細同寫ヨリ御承知ノ上御詮議ノ結果何分ノ儀御回示相成度此段申進ス

譯文

第CC・一・五・三・CR號

一九四二年十二月十五日

瑞西國特命全權公使カミーユ・ゴルヂェ

外務大臣 谷 正之 閣下

以書翰啓上致候陳者九月十二日附條三普通第四一七號貴翰ニ関シ米國政府ハ本國政府ニ對シ左記ノ通帝國政府ニ通報方依頼越シタル旨申進スルノ光榮ヲ有ス

一、米國政府ハ帝國將校俘虜ニ對シ最ニ瑞西國公使館ヨリ帝國外務省宛三月二十四日附書

等シキモノナリヤ否ヤヲ記述セラレサルコトヲモ諒知セリ。米國政府ハ此ノ點ニ關シ通報アランコトヲ希望ス。帝國政府ニ捕ヘラレタル米國將校俘虜ニ對シ無償ニテ食糧及被服ヲ給與セラレサルナラハ米國政府ハ提示俸給ハ充分ナル小遣錢ヲ殘存シテ食糧及被服並ニ必需品ノ代ヲ支払フニ充分ナラスト思考スルヲ以テ一ケ月ノ維持費ニ等シキ額ヲ増額セラレンコトヲ要求ス

三、米國政府ハ帝國政府ノ支払措置ハ帝國政府ニ捕ヘラレタル加奈陀豪洲ヲ含ム英國將校俘虜及其與國將校ニ對シテモ同樣ナル旨ノ帝國政府ノ言明ヲ諒知セリ。英國將校及與國將校俘虜ニ對スル帝國政府ノ支払措置ハ之ヲ承知セサルニ依リ米國政府ハ之等支払措置ニ關シ通報セラレンコトヲ依頼ス

四、米國政府ハ帝國政府ノ本件支払措置ハ一方的ニ實施セラルヘク米國政府ニ捕ヘラレタル帝國將校俘虜ニ對シ過去ニ於ケル如ク俸給全額ヲ支払フルヘキコトヲ期待スル旨ノ帝國政府ノ所述ヲ諒知セリ

英國將校及英國傭兵俘虜ニ対スル帝國政府ノ支払措置ハ之ヲ承知セサルニ依リ米國ハ之等支払措置ニ関シ通報セラレンコトヲ依頼ス

四 米國政府ハ帝國政府ノ本件支払措置ハ一方的ニ實施セラルヘク米國政府ニ捕ヘラレタル帝國將校俘虜ニ対シ過去ニ於ケル如ク俸給全額ヲ支払ハルヘキコトヲ期待スル旨ノ帝國政府ノ所述ヲ諒知セリ 米國政府ハ帝國將校俘虜ニ対シ米國將校ニ支払ハレタル俸給額ヲ超過セサル範圍ニ於テ俸給全額ヲ支払フニ同意シ帝國將校ニ支払ハレタル俸給額ヲ承知セサルニ付之カ通報アランコトヲ要望ス

五 米國政府ハ俸給トシテ俘虜ニ対シ為サレタル支払ハ戰爭終了際俘虜ノ服役シタル國ヨリ償還セラルヘシトノ帝國政府ノ提議ヲ受諾ス

六 米國政府ハ帝國政府カ米國將校俘虜ノ家族ニテ帝國内及帝國ノ占領地内ニ居住スル者ニ対スル金錢ノ轉致ニ対シ便宜供與セラルヘキ趣ヲ諒知セリ 米國政府ハ同様ニ米國ニ捕ヘラレタル帝國將校俘虜ノ米國居住家族ニ対シ利益代表國ヲ通シ金錢ヲ轉致スヘシ

九九外

米國政府ハ前記提議ニ関シ帝國政府ノ見解ヲ至急承知致シ度希望致居候 仍テ本件要望ニ御回答アランコトヲ御依頼申上候

右申進旁々本使ハ茲ニ重テ貴大臣ニ向テ深甚ナル敬意ヲ表シ候

壹第二一一〇號其一

將校俘虜ノ給與ニ関スル米國政府ノ提議ニ関スル件

外務省

陸亜密第一二七五號

次官ヨリ外務次官ヘ回答案

昭和十七年十二月二十八日居秘合第一七七七號ヲ以テ照會ニ係ル首題ノ件左記趣旨ニ依リ米國政府宛回答相成度

記

一、米國政府ノ提議ニ基ク將校俘虜ニ対スル給與方法ハ相互的トセス帝國ニ於テ一方的ニ

實施スルモノナリ即チ

(一) 米國ニ俘虜トナリタル帝國將校ニ対シテハ陸戰ノ法規慣例ニ関スル條約附屬規則第十七條ニ依リ同一階級ノ米國將校ト同額ノ俸給ヲ支拂ヒ戰後帝國政府ヨリ之ヲ償還スルモノトス從テ此ノ際帝國ニ於ケル將校ノ俸給額ヲ通報スルノ要ナシ

(二) 俘虜將校少佐以上ニハ百四十圓、大尉ニハ百圓、中少尉、准士官ニハ六十圓ヲ給スモ右ハ帝國ニ於テ一方的ニ實施スルモノナルヲ以テ帝國貨幣、米國貨幣間ノ換算率ヲ両國間ニ於テ定ムルノ要ナシ

換算率ハ米國國内問題ナルヲ以テ米國政府ニ於テ一方法ニ暫定スルヲ以テ定ムルヘシ

二、俘虜將校ニ対スル給與金(小佐以上百四十圓、大尉百圓、中少尉准士官八六十圓)中ヨリ糧食品反被服ヲ自辧セシムルモ充分ノ余裕アルヲ以テ本給與金ノ外ニ糧食、被服等ヲ官給スルノ必要ヲ認メス

三 英國(豪洲、加奈陀、南阿等其ノ屬領ヲ含ム)反和蘭俘虜將校ニ対スル俸給支拂モ本

支給方法ニ依ルモノニシテ之カ實施ニ関シテハ米國政府ヨリ前記諸國政府ニ協議スルモノトス

現在ニ於テハ米國俘虜將校ニ対スルト同様ニ陸戰ノ法規慣例ニ関スル條約附屬規則第十七條ニ依リ帝國將校ト同額ノ俸給ヲ支払ヒアルヲ以テ米國俘虜將校ニ対シテノミ本支給方法ニ依ルトキハ各國俘虜將校ニ対スル給與ノ整一ヲ欠クコトトナリ事務上困難ナリ

追テ本回答ニ記載セスト雖モ前回米國政府提議ニ基キ客年六月二十三日附陸亜普第四八五號ヲ以テ回答シタル事項ハ変更セサルモノナルニ付念ノ為

將校俘虜ノ給與ニ関スル米國政府ノ提議ニ関スル件

陸亜密

次官ヨリ外務次官ヘ回答案

四月二十八日附亜北第二〇九號來照首題ノ件ニ関シ左記ノ通回答ス

貴照會　左　記

貴照會別紙丙號ノ米國政府ノ回答ハ當初ノ米國政府ノ提議トハ全然本質ヲ異ニシ現行ノ儘ヲ實施セントスルモノノ如ク思料セラルルニ付本件ハ自分打切リト為スヲ可トスル意見ナリ

陸亞密第四五三九號昭和十九年五月廿七日

居秘第三〇〇號

昭和十九年四月二十八日

外務次官

俘虜情報局長官殿

將校俘虜ノ給與ニ關スル米國政府ノ提議ニ關スル回答寫送付ノ件

四月二十八日附居秘第二〇九號外務次官發陸軍次官宛將校俘虜ノ給與ニ關スル米國政府ノ提議ニ關スル回答寫別添送付ス委曲右ニテ御了知相成度

居秘第二〇九號

昭和十九年四月二十八日

外務次官

陸軍次官殿

將校俘虜ノ給與ニ關スル米國政府ノ提議ニ關スル回答ノ件

客年三月九日附陸亞秘第一二七五號貴翰ヲ以テ御回示相成リタル將校俘虜ノ給與ニ關スル米國政府ノ提議ニ關シテハ曩ニ在京瑞西國公使ヲ通シ米國政府ニ對シ別紙甲號並乙號ノ通帝國政府ノ意嚮通報シ置キタル處右ニ關シ今般在京瑞西國公使ヨリ別紙丙號ノ通米國政府ノ回答ヲ傳達越シタルニ付右來往信寫一括茲ニ送付ス委曲右ニテ御諒承ノ上右ニ關スル貴見何分ノ儀御回示相煩度

條三普通第四一七號

以書翰啓上致度候陳者五月九日附貴翰（0041106）ヲ以テ帝國權内ニアル米人俘虜

將校ニ支給サルヘキ俸給ニ関スル米國政府ノ提議御通報相成敬承致候
帝國政府ニ於テハ俘虜ノ待遇ニ関スル一九二九年ノ條約ニ準シ帝國權内ニアル敵國人俘虜將校ニ對シ我軍相當階級ノ將校ト同額ノ俸給ヲ支給シ居ル處帝國政府ノ左記條件ノ下ニ現行支給額ヲ變更シ差支ヘナキ旨回答スルト共ニ右ニ對スル米國政府ノ諾否御回示相成度候
右申進旁本大臣ハ茲ニ重ネテ閣下ニ向ケ敬意ヲ表シ候　敬具

昭和十七年九月十二日

外務大臣　東條英機

瑞西國特命全權公使
「カミーユ・ゴルジエ」閣下

記

一、米國人俘虜將校ハ糧食費、被服費及日用品費ヲ自辨スヘシ
二、米國人俘虜將校ニ對スル俸給月額左ノ通リトス
　1．中、小尉及准士官及右階級相當官ニ對シテハ月額六十圓
　2．陸海軍大尉及右階級相當官ニ對シテハ月額百圓
　3．陸海軍少佐以上及右階級相當官以上ニ對シテハ月額百四十圓
　前記諸俸給中ノ最低額六十圓ヲ以ツテスルモ糧食被服及日用品ノ諸費用ヲ支辨シ相當小遣金ヲ餘シ得ル見込ナリ
三、右支拂方法ハ之ヲ英國人（加奈陀人及濠洲人ヲ含ム）和蘭人及他ノ敵國人俘虜將校ニ對シテモ一律ニ適用スルモノトス
四、右支給方法ハ帝國政府ニ於テ一方的ニ實施シ相互條件トセス敵國權内ニアル日本人俘虜ニ對シテハ從來通リ俸給全額ヲ支拂フヘキモノトス
五、帝國政府ハ各交戰國ニ據リ支給セラレタル俘虜ニ對スル給與額ハ戰爭終了後俘虜ノ兵役ニ服シタル國ニ依リ返濟セラルルモノト諒解ス
六、帝國政府ニ於テハ俘虜タル將校ノ家族ニシテ帝國領土又ハ占領地内ニ居住スル者ニ對

シ諸外國政府ヨリノ家族渡シ送金ニ関シテハ時ニ便宜ヲ供與スル用意アリ

別紙乙號

居普通第一一六號

以書翰啓上致候陳者客年十二月十五日附第CC一・五・三CF號貴翰ヲ以テ俘虜タル將校ノ給與ニ関シ米國政府ノ再應ノ申出ヲ御通報相成敬承致候

帝國政府ハ本件ニ関シ客年九月十二日附條三普通第四一七號ヲ以テ帝國權内ニ在ル敵國人俘虜タル將校ニ對シハ我軍相當階級ノ將校ト同額ノ俸給ヲ給與シ居ル旨通報シタル次第ニ有之（給與實施ノ細目ハ陸戰法規慣例ニ関スル條約附屬規則第十七條ニ準據ス）帝國政府ニ於テハ特ニ右支給額ヲ變更スル必要ヲ認メサルトコロアルモ米國側ニ於テ強テ之カ變更ヲ望マルルニ於テハ帝國政府ニ於テモ一足條件ノ下ニ之ヲ變更スルノ用意アル旨申進シ置キタル次第ニ有之候

帝國政府ハ今尚其ノ條件ヲ變更スル意嚮無之モ前記提議ノ條件ニ関シ左ノ事項ニ付茲ニ米國側ノ注意ヲ喚起致候

一、帝國政府ノ提議シタル諸條件中特ニ其給與額ハ俘虜ノ生活費ヲ愼重考慮シタル上決定シタルモノニシテ右給與額ヨリ食費及被服費ヲ自辨スルモ尚充分ナル餘裕アルヲ以テ同給與額ノ他ニ糧食及被服ヲ支給スルノ必要ナク且給與額増加ノ必要モ無之候

二、帝國政府ノ提議セルトコロニ依リ實施セラルヘキ將校俘虜ニ對スル給與額及之カ支給方法ハ之ヲ相互的トセス帝國政府ニ於テ一方的ニ實施スルモノニシテ米國ニ俘虜トナリタル帝國將校ニ對シテハ米國側ニ於テ俸給全額ノ給與ヲ繼續シ之ニ對シテハ戰後帝國政府ヨリ之ヲ償還スルモノニシテ何レモ一方的給與措置ナルヲ以テ此ノ際帝國ニ於ケル將校ノ俸給額ヲ通報スルノ要無ク且又現在ハトコロ相互間ノ換算率ヲ決定スルノ必要モ無キ次第ニ有之候

三、帝國政府ニ於テハ帝國權内ニ在ル英國（濠洲、加奈陀、南阿等其ノ屬領ヲ含ム）及和

蘭國ノ全部ノ俘虜タル將校ニ對シ一律ニ前記ノ如ク帝國將校ト同額ノ俸給ヲ支給シ居ルヲ以テ米國俘虜將校ニ對シテノミ本給與方法ヲ曩ニ帝國政府カ變更ノ用意アル旨申進シ置キタル方法ニ變更適用スルコトハ困難ナルヲ以テ右變更實施方ニ關シテハ米國政府ヨリ前記各國政府ニ對シ之カ採用方ニ關シ協議ノ上決定セラレ度候

右回答申進旁々本大臣ハ茲ニ重ネテ閣下ニ向テ敬意ヲ表シ候　敬具

昭和十八年四月二十八日

外務大臣　重光葵

瑞西國特命全權公使

「カミーユ・ゴルジエ」閣下

別紙丙號

以書翰啓上致候陳者客年四月二十八日附居普第一一六號貴翰ヲ以テ日本權内ニ在ル米國俘

一〇一四

虜將校ニ支給セラルル俸給ニ関スル情報御通達相成候

本使ハ右ノ次第ヲ早速米國政府ノ代理タル我政府ニ通報シ置キタルコトヲ茲ニ閣下ニ向テ通告スルノ光榮ヲ有シ候

華府政府ハ左記回答ヲ日本國政府ニ轉達方依頼越候

米國政府ハ日本國政府カ其ノ管下ニアル米國俘虜將校ニ對シ日本軍相當階級官ト同額ノ俸給ヲ支給スヘキ旨提議ヲ受諾ス、右俸給ハ食費及被服費ヲ含マズ米國俘虜將校ハ其ノ俸給中ヨリ之ヲ支辨スルコトト了解ス米國政府ハ相互的ニ米國軍管下ノ大尉相當官以上ノ日本俘虜將校ニ對シ日本國政府カ日本軍ノ相等階級將校ニ支給スル俸給ヲ支給スヘシ米國軍管下ノ日本俘虜將校ハ其ノ俸給中ヨリ食費及衣服費ヲ支辨スヘシ米國政府ハ米國軍ノ中尉及少尉ニ相當スル日本將校ハ夫々月額八十五圓及七十圓八十三錢ヲ支給セラレ居ルモノト了解ス提議セル爲替率一弗對四圓ヲ基準トスレハ之等俸給ハ夫々月額二十一弗二十五仙及十七弗七十一仙ニ相當シ米國ニ於ケル食費及衣服費ヲ支辨スルニ充分ナラスト看做サルニ依テ

本國政府ハ斤務的ニ前記階級ニ属スル日本俘虜将校ニ對シ夫々月額二十八弗及二十九弗ヲ支給シ右費用ヲ支辨シタル上不意ノ用意ノ為少額ノ餘裕ヲ殘サシム

本使ハ茲ニ重ネテ貴大臣ニ向テ敬意ヲ表シ候

敬具

條三普通合第八二二號

昭和十七年五月二十日

外務次官

俘虜情報局長官殿

在英國抑留人ノ給與等ニ関スル英國政府ノ申出ノ件

本件ニ関シ英國政府ヨリ申出アリタル趣ヲ以テ本邦英國利益代表タル在京「アルセンティン」代理大使ヨリ別紙ノ通申越シタルニ付右茲ニ送付ス貴見何分ノ儀御回示相成度

本信送付先　陸軍次官、海軍次官、俘虜情報局長官

五月一日附在京亜爾然丁國大使來翰第五三號譯文

以書翰啓上致候、陳者本使ハ英國政府ノ要請ニ依ル趣ヲ以テ本國政府ノ訓令ニ依リ貴大臣ニ對シ左ノ通リ通報スルノ光榮ヲ有シ候

一、英國政府ハ自治領及植民地俘虜ヲ含ム凡テノ英國俘虜ニ對シ日本政府カ同樣ノ取扱ヲ為スモノトノ假定ノ上ニ日本軍非将校俘虜ニ對シ必要ナル衣服ヲ給シ居レリ

二、俘虜ニ對シ左ノ食料ノ供給ヲ許可シ居レリ

日本人下士官ニ對スルモノ

馬鈴薯又ハ甘藷　二オンス

新鮮ナル野菜　三オンス

米　一〇オンス

大豆　三オンス
肉又ハ魚肉　二オンス
新鮮ナル果物　三オンス
砂糖　半オンス
塩　半オンス
「ラード」又ハ食用油　二オンス

、若シ俘虜カ勞働者ニ雇傭サレタルトキハ米四「オンス」ヲ増加ス

三　日本政府ニ於テ希望セラレ且ツ食糧ノ入手可能ナルニ於テハ英國政府ハ第二項所述ノ糧食ノ割合ヲ變更スルノ用意アルモ之ニ先チ歐洲人及亜細亜人ヲ含ム英國俘虜ニ對シ與ヘラルル糧食量ヲ承知致シ度ク希望シ居レリ

四　英國政府ハ又日本將校俘虜ニ對シテハ第二項所定ノ食糧ヲ一時的ニ給シ居レルモ右ハ自費トスル旨ヲ表明ス

五、英國政府ハ相互條件ノ下ニ一週「二オンス」ノ煙草若クハ巻煙草ヲ非將校俘虜ニ無償ニテ給付スルノ用意アリ

本使ハ茲ニ重ネテ閣下ニ向テ敬意ヲ表シ候　敬具

條三普通合第一三八六號
昭和十七年九月十六日

外務次官心得　山本熊一

俘虜情報局長官殿

日英兩國俘虜ノ給與ニ關スル件

本件ニ關シ五月二十日附條三普通合第八二二號ニ添附ノ別紙ヲ以テ申進シ置キタル處同信中英國側ハ日本人下士官ニ對スル食料ノ供給分量ニ新鮮ナル野菜三「オンス」米十「オンス」ト通知シ來レルモ當方ヨリ照會ノ結果右ハ新鮮ナル野菜六「オンス」米二十「オンス」

ノ誤ナルコト判明セリ右通報申進ス

本信送付先　陸軍省、海軍省、俘虜情報局

條三普通合第八一五號

昭和十七年九月十九日

俘虜情報局長官殿

外務次官

俘虜ノ俸給ニ関スル英國政府申入ノ件

本件ニ関シ今般英國ノ利益代表タル在京亜爾然丁國大使ヨリ別紙書翰寫ノ通申越アリタル處本件申入ハ一九二九年ノ俘虜ノ待遇ニ関スル條約第二十三條ノ規定ニ依ル俘虜將校ニ對

一〇三4

スル支拂ニ関スル通報ト認メラルルニ付委細右翰ニ付御知悉ノ上支拂ニ関スル諸問題ニ関シ貴見何分ノ儀御回示相成度

本信送付先　陸軍、海軍、大藏次官、俘虜情報局長官

五月一日附在京亜爾然丁國大使來翰第五二號譯文

以書翰啓上致候陳者本使ハ英國政府ノ要請ニ依ル趣ヲ以テ本國政府ノ訓令ニ依リ貴大臣ニ對シ左ノ通通報スルノ光榮ヲ有シ候

英國政府ハ俘虜トナリタル日本將校俘虜ノ俸給ニ関スル左ノ如キ暫定的命令ヲ發セリ

第一例規ニ依ル月俸左ノ通

	磅	志	片
大將（general）	二一	一五	一一
中將（Lieutenant general）	二七	一八	一〇
少將（Major general）	二四	一	九

大佐	(Colonel)	一七・一八・五
中佐	(Lieutenant Colonel)	一二・一四・五
少佐	(Major)	九・一六・〇
大尉	(Captain)	七・一・八
中尉	(Lieutenant)	四・一八・三
小尉	(Second Lieutenant)	四・一・一

右ヲ暫定的相場ニテ換算率ハ一圓ヲ一志一片八分ノ七トス

第三、壽府俘虜ノ待遇ニ關スル條約第二十二條規定ニ依リ將校ノ衣服及食料ハ自費トス

第四 英國政府ハ左ノ事項ヲ承知致度シ

(イ) 前記暫定俸給率ハ日本政府カ支拂ヒ居ルモノト一致セルヤ否ヤ又第二ニ所述ノ圓相場ヲ英國將校ニ認メ居ルヤ否ヤ

(ロ) 然ラサレハ日本陸、海、空軍將校ノ俸給幾莫ナリヤ又右ヲ英國俘虜將校ニ支拂ヒ居ルヤ否ヤ

(ハ) 壽府條約第二十三條所定ノ規定ニ依ル暫定爲替相場ヲ日本政府ハ受諾セラルルヤ否ヤ

(ニ) 日本政府ハ將校ニ對シ無償ニテ食料給付ヲ爲ス特別協定ヲ企圖セラレ居ルヤ然リトセハ英國政府ハ右ニ關シ提案ヲ爲スヘシ

英國政府ハ日本政府カ壽府條約第二十三條ノ規定ニ基キ其ノ比率ニ依リ給與スルモノト了解シ然シテ右等將校カ第二十二條所定ノ必要ナル食料及衣服ヲ購入スルノ便宜ヲ與ヘラルモノト思考シ居レリ

第五 次表ニ掲ケタルハ捕獲セラレタル「保護人員」及其ノ下士官ニ對シ英國政府ヨリ支拂ハルヘキ日額ナリ

		磅 志 片
軍醫		
少將	(Major General)	四、一〇、六

一〇三四

		磅	志	片
大佐	(Colonel)	三	三	四
中佐	(Lieutenant)	二	一二	〇
少佐	(Major)	一	一四	〇
大尉	(Captain)	一	四	六
中尉	(Lieutenant)		一九	一〇

歯科軍醫

		磅	志	片
大佐	(Colonel)	三	一	二
中佐	(Lieutenant Colonel)	二	九	一〇
少佐	(Major)	一	一一	八
大尉	(Captain)	一	二	八
中尉	(Lieutenant)		一八	二

看護婦(年俸)

婦長	(Matron)	一六〇	〇	〇
看護婦	(Nursing Sister)	九五	〇	〇

下士官(日給)

聯隊附軍曹	(Regimental Sergeant)	一二	六
中隊附軍曹	(Company Sergeant)	九	〇
曹長	(First Sergeant Major)	八	六
軍曹	(Sergeant)	六	六
軍曹勤務伍長	(Lance Sergeant)	五	三
伍長	(Corporal)	四	六
兵長	(Lance Corporal)	三	九
兵	(Private)	二	六

下士官ハ更ニ捕獲セラレタル戰斗部隊ニ認メラレタルモノト同量ノ食糧ヲ受ク

一〇四

將校ノ食費ハ自費ヲ以テス　看護婦ハ給料ノ外ニ食料ヲ給與サルヘシ

英國政府ハ日本國政府カ英國「保護人員」ニ對シ給與セラルル給付額ニ付承知致度

印度太守ニ依リ任命セラレタル將校ニ對スル給與ハ月額三磅ニ止メラレ度シ

右將校ハ英國印度軍又ハ英帝國軍將校ト區別セラルル爲メ左ノ階級ヲ有シ居レリ

騎兵聯隊本部官　(Rissaldar Major)

歩兵聯隊本部官　(Subadar Major)

騎兵中隊長　(Rissaldar)

歩兵中隊長　(Subadar)

小隊長　(Jemadar)

（條約局註印度兵ハ士官下下士官トノ中間ニ位スル特殊ノモノナリ將校ニハアラズ）

本使ハ茲ニ閣下ニ向ツテ重ネテ敬意ヲ表シ候

敬具

一〇四四

壹第二一一〇號

條三普通合第八二五號

昭和十七年五月二十日

外務次官

陸軍次官殿

米國政府ノ俘虜將校俸給特別協定締結方申入ノ件

本件ニ關シ今般米國ノ利益代表タル在京瑞西國公使ヨリ別紙ノ通申出アリタルニ付委曲右ニテ御知悉ノ上貴見何分ノ儀御回示相成度

本信送付先、陸軍省、海軍省、俘虜情報局

五月九日附在京瑞西國公使來翰譯文

以書翰啓上致候陳者本使ハ貴大臣ニ對シ獨逸國政府ハ同國内ニ收容セラレ居ル米國俘虜將

三　陸軍少佐以上、海軍少佐以上、海軍陸戰隊少佐以上及米國沿岸防備備隊又ハ米國公衆衛生隊中ノ同階級者並ニ日本軍隊ニ於ケル右階級相当者ハ月額三十五弗又ハ百四十圓ヲ支給サル

前記給與ハ俘虜收容所ニ於テ配付セラルル食糧ノ外ニ與ヘラルルモノニシテ俸給金額ヨリ前記給與ヲ差引キタル殘額ハ俘虜所屬國ヨリ俘虜將校ノ家族ニ分割支拂ハルヘシ

本件米國政府提案ニ對スル貴國政府ノ諾否伺ヒ旁本使ハ茲ニ重ネテ閣下ニ向ヒテ敬意ヲ表シ候

陸亞普

陸軍次官ヨリ外務次官宛回答案

條三普通合第八二五號ヲ以テ照會ニ依ル首題ノ件ハ左記ヲ條件トシ之ニ應スルモ差支ナキ旨回答相成度

條三普通第一二八號

昭和十七年二月二十日

外務次官

俘虜情報局長官殿

俘虜ノ金錢收入ニ關スル米國政府ノ提案ニ關スル件

本件ニ關シ今般米國政府ヨリ瑞西國政府ヲ通シ別紙書翰寫ノ如ク申入レ越タルカ右ハ一九二九年俘虜條約第二十三條ニ基キ俘虜將校ノ俸給、支拂方法、爲替相場ニ関シ又第二十四條ニ基キ所持金最高額ニ關シ取極ヲ爲サントスルモノト認メラレ当方トシテハ本條約ヲ準用スルモ何等其ノ義務ヲ負ヒ居ラズ又内容的ニ見ルモ俘虜俸給及所持金ノ増額ハ我方ニ有利トモ認メラレス旁々先方申入ハ之ヲ拒絶スル方宜敷キヤニ認メラルル處貴見御回示相成度

陸軍中尉	(First lieutenant)	二、四〇〇
准士官	(Warrant Officer)	一、八三六
海軍陸戦隊少将	(Marine Coorps Major General)	八、〇〇〇
海軍副少将	(Brigadier General)	六、〇〇〇
海軍大佐	(Colonel)	四、〇〇〇
海軍中佐	(Lieutenant Colonel)	三、五〇〇
海軍少佐	(Major)	三、〇〇〇
海軍大尉	(Captain Lieutenant)	二、四〇〇
海軍中尉	(First Lieutenant)	二、〇〇〇
海軍少尉	(Second Lieutenant)	一、五〇〇
海軍一等准尉	(Chief Warrant Officer)	二、〇〇〇
海軍准士官	(Warrant Officer)	一、七六六

米國政府トシテハ前記箇條ノ趣旨ニ依リ瑞西聯邦政府ヲ通シ帝國政府ト取極ヲナスコトニ交渉ヲナス用意ヲ有スルモノト被存候

日本政府ニ於テ本件ニ關シ同様協定ヲナス意向ナリヤ御回示相成度茲ニ御依頼旁々本使ハ閣下ニ向ツテ重ネテ深甚ナル敬意ヲ表シ候

敬具

俘情發第一三一號

俘虜ノ金錢收入ニ關シ米國政府ニ對スル回答ノ件

昭和十七年三月六日

俘虜情報局長官　上村幹男

外務次官　西春彦殿

條三普通第一三八號ヲ以テ來照首題ノ件ハ貴意見ノ通回答ノ要ナカルヘシ

俘三秘合第一四〇七號

昭和十七年九月二十一日

外務次官

俘虜情報局長官殿

俘虜及抑留者ノ勞働賃金ニ關スル米國政府ノ提議ニ關スル件

本件ニ關シ今般米國政府ヨリ在京瑞西國公使ヲ通シ書翰ヲ以テ提議アリタルニ付同書翰訳文送付ス　右ニ對スル貴見御回示相煩度

本信送付先　陸軍、海軍、内務各次官、俘虜情報局長官

在京瑞西公使八月十二日附書翰譯文

以書翰啓上致候陳者抑留非戰闘員ノ勞働ニ關スル三月二十四日附拙翰ニ引續キ米國政府ハ帝國政府ニ對シ左ノ如ク通告方依賴越シタル旨通報スルノ光榮ヲ有シ候

米國政府ハ俘虜ノ待遇ニ關スル條約第三十四條ニ規定セラレタル手續ニ從ヒ俘虜ノ勞働ガ

イ　其ノ居室ヲ含ム收容所ノ維持又ハ修繕ニ必要ナル

ロ　俘虜ノ安樂又ハ健康ヲ改善又ハ増進ニ關係スル

ハ　又ハ俘虜各自ノ收容所内ノ經濟ニ關係スル

以外ノ目的ニ使用セラルル場合ニハ俘虜ニ對シ毎日俘虜ノ給養ノ外ニ瑞西貨三法ニ相當スル金額ヲ支拂ハルル樣協定スルコトヲ提議ス

有給ノ勞働ヲ希望スル米人抑留非戰闘員ニ對シ帝國政府ガ幾何ノ金額ヲ支拂ハルルヤノ情報ヲ受クル迄米國政府ハ前項ニ記載シタル以外ノ勞働ヲ希望スル抑留非戰闘員ニ對シ毎日瑞西貨三法ヨリ少ナカラザル率ヲ以テ支拂ヒヲ爲スベク且右支拂ハ抑留非戰闘員ノ給料ノ外トス

本件ニ關スル帝國政府ノ御意嚮御回示依賴旁々本使ハ茲ニ貴大臣ニ對シ深甚ナル敬意ヲ

表ニ候

俘管第四號ノ三九

俘虜労務賃金ニ関スル件通牒

昭和十八年七月二十八日

北方、東部、中部、西部、朝鮮、各參謀長

関東軍總參謀長

俘虜管理部長

俘虜ヲ部外労務ニ服セシメタルトキノ賃金ニ関シ之ガ取扱區々ナル向モ有之哉ニ見受ケラルルニ付念ノ為左記ノ通通牒ス

左記

一、部外官廳ノ労務賃金ハ陸軍部隊ニ於ケル場合ト同様トス從テ此ノ場合ハ國庫納金ナシ

二、前號以外ノ部外労務

(一) 基本賃金ハ准士官下士官兵ヲ問ハス一円ニシテ其ノ中准士官ニ在リテハ二十五銭、下士官ニ在リテハ十五銭、兵ニ在リテハ十銭ヲ夫々本人ニ支給シ残額即チ准士官ニ在リテハ七十五銭、下士官ニ在リテハ八十五銭、兵ニ在リテハ九十銭ヲ夫々國庫納金トス

(二) 有技術者ニ対シ基本賃金ト外三十五銭以内ヲ増額シタルトキハ該金額ハ本人ニ支給スルモノトス從テ此ノ際ニ於ケル國庫納金ハ前號ニ於ケル場合ト同額ナリ

（例之有技術下士官ニ三十銭ヲ増額シタルトキハ俘虜使用者ノ納付スル賃金ハ一円三十分（基本賃金一円ニ増額三十銭ヲ加フ）ニシテ其ノ中四十五銭（基本賃金中本人ニ支給スヘキ十五銭ニ増額三十銭ヲ加フ）ヲ本人ニ支給シ残額八十五銭ヲ國庫納金トシテ納付ス）

三、非軍人タル俘虜ヲ労務ニ服セシメタルトキ賃金ハ相當階級ノ戰闘員俘虜ニ準ス但シ

尉官以上相當者ニ在リテハ准士官ニ準スルモノトス

参照第二號

謹啓

本代表ハ俘虜ノ給料ヲ外國ヘ送金スル件ニ關シゼニーヴヨリ書翰ヲ受取申候

致ケ國ニ於テハ俘虜達ガ自己ノ得タル給料中其或部分ヲ家族達ヘ送金スル事ヲ許可致サレ居候ゼニーヴ赤十字國際委員會ハ屢々俘虜自身、或ハ其家族達ヨリ該問題ニ關スル留置國ノ便宜実施方法ノ照會ニ接シ居申候

ゼニーヴ赤十字國際委員會ハ右ノ問題ニ關シ日本ニテハ如何ナル所置ヲ採ラレテ居ルカニ付全部明細ナル報告ヲ要望致居候

ゼニーヴ赤十字委員會ハ特ニ左記ノ諸点ヲ承知致シ度希望仕居候即チ俘虜ハ給料ハ幾割ヲ家族ニ送金ナシ得ルヤ送金ノ方法及俘虜ノ保護者ガ送金受領方法ノ希望ヲ明示スル方法等ニ候本代表ハ貴局ニ於テ該問題ヲ御研究被成下候ヘバ誠ニ感謝ノ至リニ奉存候

敬具

昭和十八年六月七日

横浜 赤十字國際委員會

駐日代表

俘虜情報局殿

俘情第六號ノ一四

俘虜ノ本國送金ニ關スル件

昭和十八年六月十五日

俘虜情報局長官

赤十字國際委員會駐日代表殿

六月七日附参照第二號ヲ以テ照會ニ係ル首題ノ件左記ノ通回答ス

尉官以上目當ニ

四三六

左記

一、客年米國政府ヨリ帝國政府ニ對シテ俘虜將校ノ俸給全額ヲ支給スルコトトナリ帝國ニ於テハ一部ヲ支給シ差額ハ米國ニ於テ家族ニ對シ支給致シ度キ旨ヲ照會シ來リタルヲ以テ米國政府トシテハ之ニ對シ原則トシテ異議ナキ旨ヲ回答シ目下實施ノ細部ニ關シ交渉中ナリ從テ本提案カ實現シタルトキハ俘虜ノ本國宛送金問題ハ解決スヘシ

一、現在ニ於テハ前述提案解決セサルヲ以テ相互關係等ヲ考慮シ俘虜ノ本國宛送金ニ付テ許可[illegible]ス

居普通第一八四八號

昭和十八年十二月二十九日

外務省在敵國居留民關係事務室　鈴木公使

俘虜情報局長官殿

英國人俘虜ニ対シ食糧改善方申出ノ件

最ニ赤十字國際委員會並ニ在京瑞西國公使館ヨリ英國人俘虜ニ対シ栄養補足ノ為大豆増給方申出アリタル處此種特定食料品ニ対スル要求ニ應諾シ得サルハ勿論ノ儀ト被存タルニ付関係當局ニ於テハ俘虜ノ食糧ニ対シ細心ノ注意ヲ拂ヒ居レルヲ以テ特定品ノ増給ヲ特ニ考慮スル必要ヲ認メ難シト應酬シ置キタリ

然ルニ今般在京瑞西國公使館ハ別添十二月九日附口上書譯文ノ通俘虜ノ食糧ニ関スル英國政府抗議ヲ傳達越セル處本件處理ニ関シテハ関係當局ニ於カレテモ充分ノ考慮ヲ拂ハレ居リ英國側申出ノ如キ事項モ既ニ御考究濟ノコトト被存モ先方抗議反駁ノ適當資料モアラハ御回示置相成度

十二月九日附在京瑞西國公使館口上書譯文

帝國外務省ハ瑞西國公使館ニ対シ六月二十三日附居普通第一八七號ヲ以テ鈴木公使閣下發

四三七

在本邦國際赤十字代表宛公信寫ヲ送付セラレタル處右ニ依レハ関係當局ハ俘虜食糧問題ニ対充分ノ注意ヲ拂ハルヘキ旨陳ヘラレ居レリ

同公使館ハ外務省ニ対シ右ノ次第関係國政府通告ノ為自國政府ヘ報告セル旨通知スルノ光榮ヲ有ス

一方英國政府ハ左ノ通告ヲ為シ來レリ

俘虜ニ分配セラレタル定糧表ノ分析、俘虜ノ一般的重量減退、南方諸地域ニ於ケル脚氣ニ因ル多数ノ死亡等ハ何レモ日本官憲ニ於テ俘虜カ十分ナル食糧ヲ與ヘラレ居レリトノ主張ト相違スルモノナリ

殊ニ脚氣ニ関シテハ俘虜ニ対シ通常米カ精米ニテ交付セラルル為主要「ヴイタミン」タル「ヴイタミン」Bノ欠乏ニ基因ス

依テ英國政府ハ日本ノ權内ニ在ル凡テノ俘虜カ其ノ健康ヲ維持スルニ充分ナル食糧ヲ與ヘラレムコトヲ主張スルモノナルカ特ニ関係當局カ精米ノ代リニ半搗米ヲ與ヘラレムコトヲ要請ス

瑞西國公使館ハ外務省ニ対シ右関係當局ヘ移牒方要請旁茲ニ重ネテ敬意ヲ表ス

俘給第一號

英國人俘虜ニ対シ食糧改善方申出ノ件回答

昭和十九年一月十三日

俘虜情報局長官

外務省在敵國居留民関係事務室

鈴木公使殿

十二月二十九日附居普第九四八號來照首題ノ件左記ノ通ニ付承知相成度

左記

一、現在精米ヲ用ヒス玄米ヲ給與シアリ尚米糠「ヴイタミン」剤等ヲ補給シ以テ「ヴイタミン」ノ不足ヲ補ヒツツアリ

二、脚氣ノ罹病ハ食糧不足ニ起因セルモノニアラス寧ロ食糧其ノ他生活狀態ノ変化ニ因ル

モノト思考ス

飜譯文

參照第二四四號

一、俘虜及抑留者ニ対シ玄米支給量増加ニ関スル件

謹啓陳者以前ノ調査ニ基ク俘虜及抑留者ニ対スル玄米支給ノ件ニ関聯シテ壽府委員會ヨリ本代表部宛電報ヲ以テ下記再調査方依頼致シ来申候即チ前同様玄米支給量ノ増加可能ナリヤ若シ必要ナレバ赤十字國際委員會ノ資金ヲ以テ購入スルコト、次ニ俘虜及抑留者ノ現地ニ於ケル給食量不足ヲ適合中和スル為米糠ヲ供給ス可ク用意スルコト等ニ之在候

右ノ歎願事項ニ対シ貴局ノ従前通リ御深切ナル御高配ノ程懇請仕候而シテ壽府委員會ノ提議カ實行可能ナリヤ否ヤ當代表部宛御回答被下度御願申上候

敬具

昭和十九年二月二十二日

赤十字國際委員會駐日代表部

俘虜情報局殿

俘給第一四號

俘虜及抑留者ニ対シ玄米支給量増加ニ関スル件

昭和十九年二月二十九日

俘虜情報局

赤十字國際委員會駐日代表部 御中

二月二十二日附參照第二四四號来照首題ノ件玄米ノ増加ハ困難ナリ帝國權内ニ在ル俘虜及抑留者ニ対シテハ栄養價ヲ考慮シ必要ニシテ且ツ充分ナル糧食ヲ補給シアルニ付何等懸念ノ要無シト右回答ス

居普通第三五六號

昭和十九年五月十八日

外務省在敵國居留民関係事務室　鈴木公使

陸軍省俘虜管理部長殿

俘虜タル和蘭陸軍中将「ティーバッカー」ニ対シ俸給支給方ノ件

今般在京瑞西國公使館ヨリ別添口上書假譯ノ通台湾ニ於テ俘虜トシテ收容中ノ和蘭陸軍中将「ティーバッカ」カ何等俸給ノ支給ヲ受ケ居ラサル趣ヲ以テ其ノ階級ニ相當スル俸給支給方並ニ俸給ノ支給ナク俘虜トシテ收容セラレ居タル期間ニ対スル補償支給方申越シタルニ付委細右ニテ御了知ノ上本件回答振ニ関シ何分ノ儀御回示相成度

尚在京瑞西國公使館ヨリ得タル情報ニ依レハ同人ハ退職将校トシテ現役将校ニアラサル趣ナリ右御参考迄ニ申添ス

一九四四年五月五日附在京瑞西國公使館口上書假譯文

瑞西國公使館ハ和蘭國利益代表トシテ現在台湾ニ於テ俘虜トナリ居レル和蘭人「ティーバッカー」陸軍中将ニ対スル日本軍當局ノ待遇ニ付帝國外務省ノ注意ヲ喚起スルノ光栄ヲ有ス

太平洋戰勃發ノ際「ティーバッカー」中将ハ動員局長ノ地位ニ在リタリ

同中将ハ日本軍ニ依リ捕獲セラレ俘虜收容所ヘ收容セラレタルカ右ハ其ノ軍歴ハ最後ノ軍職ニ対シ自然ニシテ論理的ナル結果ナルヘシ日本側ノ原則ハ一般ニ俘虜トナレル各将校ノ軍階級ニ相當スル俸給ヲ支給スルニ在ルニ拘ラス同中将ハ如何ナル俸給ヲモ受領シ居ラス

公使館ハ帝國外務省ニ対シ「ティーバッカー」中将ノ階級ニ相當スル俸給支給並ニ俸給ノ支給ナク俘虜トシテ收容セラレ居タル期間ニ対スル補償支給ニ付斡旋方依頼ス

俘給第二八號

俘虜タル和蘭陸軍中将「ティーバッカ」ニ対シ俸給支給方ノ件回答

陸軍省俘虜管理部長

昭和十九年五月三十日

外務省在敵國居留民関係事務室　鈴木公使殿

五月十八日附居普通第三五六號求照ノ「ティー、バッカー」ハ退役陸軍中將ノ身分ヲ有スト雖モ今次戰争ニ軍人トシテ参加シ帝國ニ俘虜ト爲リタルモノナリ仍テ之ニ對シ軍人俘虜タル待遇ヲ與フルコトヲ得ス非軍人俘虜タル取扱ヲ爲スヲ至當トスルモノニシテ從ツテ俸給ハ之ヲ支給セサルモノナルニ付承知相成度

居普通第五八九號

昭和十九年八月二十八日　在敵國居留民関係事務室　鈴木公使

俘虜情報局長官殿

俘虜タル英國商船員ニ對スル告知傳達方ノ件

今般在京瑞西國公使館ヨリ英國政府ノ要請ニ基キ別添ノ如キ東亜ニ於ケル俘虜タル英國商船員ニ對スル告知傳達方依頼アリタルニ付右譯文ト共ニ送付ス可然御取計相成度

英國商船員ニ對スル告知（譯文）

抑留セラレタル英國商船事務員（船長ヲモ含ム）又ハ船員ニシテ其ノ抑留ニ関スル給料ヲ基準トスル手當ヲ受クルモノハ何時ニテモ在「ブラックプール」及「イクロス」恩給局ニ對シ郵便貯蓄銀行ノ勘定ニ手當保管方請求スルコトヲ得、右預金ハ年二、五「パーセント」ノ割ニテ利子ヲ加算セラル右ノ保管セラルヘキ勘定ハ所得税ニ對スル必要ナル修正、家族ニ對スル手當及俘虜收容所ニ於ケル小遣錢支出ノ準備ヲ爲シタル残額ナリ、商船事務員恩給資金會員或ハ各會社ノ恩給資金會員タル場合ハ其ノ恩給資金負擔額ノ残額ニ當ル

右勘定ハ事務員又ハ関係者ヨリノ特別ノ依囑ニ依リ恩給省ノミカ郵便貯蓄銀行ニ預金スルコトヲ得、其ノ書式左ノ通（下略）

俘給第四二號

俘虜タル英國商船員ニ対スル告知傳達ニ関スル件回答

昭和十九年九月十三日

俘虜情報局長官

外務省在敵國居留民関係事務室
鈴木公使殿

八月二十八日附居普通第五八九號來照首題ノ件左記ノ通回答ス

左記

俘虜收容所ニ收容中ノ船員ニ対スル取扱ハ船長ニ在リテハ佐官相當者タル文官職員（高級船員）ニ在リテハ尉官相當者タル文官船員ニ円（但シ勞務ニ服シ賃金ヲ得）ヲ支給シアルノミニシテ其ノ他ノ者ハ兵同等ノ待遇ヲ爲シアリ從ツテ本件ニ該當スル手當ヲ支給シアラサルヲ以テ傳達ノ要ナキモノト思料ス

参照第四五八號

一　俘虜ノ預金ヲ日本支配下ノ近親者宛送金ニ関スル件

謹啓陳者貴局宛幣書一九四四年六月二十八日附第丁ノ六號ヲ以テ御送附申上置候「H、C アングスト」代表ノ台湾俘虜收容所視察ニ関スル電報々告書御参照被下度御願申上候電報第丁ノ六七號第五項ニ今日迄許可相成居候俘虜ヨリ爪哇、比島及馬来居住ノ近親宛送金ニ関スル情報ヲ記載仕リ居候電報第丁ノ六八號第四項ニ於テ英國人俘虜旅團長Ivan Simson ニ依リ述ベラレタル希望、即チ俘虜ノ予金勘定ヨリ馬来、比島及特ニ前蘭領東印度ニ於ケル近親者ヘ定期的送金實施ノ許可ニ関スル件ヲ傳達致シ居候

前記電報ニハ台湾俘虜收容所長ノ述ベラレタル情報即チ軍當局ニ於テハ送金問題ニ関シ最善ノ努力ヲ致シ居ラルル事實ヲモ記載致シ居申候

右ニ関シ壽府委員會ヨリ電報ヲ入手仕候夫レニ依レバ壽府委員會ハ関係國赤十字社ニ代リ斯カル送金問題ノ重要ナル点ヲ強調シ將來関係ヲ有スル俘虜ニ対シ定期的間隔ヲ置キテ利

用シ得ベキ擁護機関設定ノ為メ日本軍当局ニ於テ確乎タル御処置ヲ御承諾被下候事ニ対シ衷心ヨリ感謝ノ意ヲ表明仕候

一 本代表部ハ貴局ニ於テ斯カル金銭擁護ニ対シ御仁慈ナル御留意御援護給ハラバ難有奉存候而シテ右関シ如何ナル御処置ヲ御講ジ被下候事ガ適当ト被存候哉御通知被成下候ヘバ感謝ノ至リニ奉存候

敬具

昭和十九年七月二十八日

赤十字国際委員会駐日代表部

俘虜情報局殿

俘給第三八號

俘虜ノ送金ニ関スル件回答

昭和十九年八月十一日

俘虜情報局

赤十字国際委員会駐日代表部 御中

七月二十八日附参照第四五八號来照首題ノ件左記ノ通回答ス

左記

帝国臣民ノ南方占領地宛送金モ為替管理ノ関係上厳重ナル制限下ニ在ル現状ニ鑑ミ俘虜ノミ対シ自由乃至ハ寛大ナル送金ヲ許スヲ得ズ、但シ各俘虜収容所ニ於テハ事情已ムヲ得ズト認メタル場合ハ適宜ノ方法ニテ送金セシメアルヲ以テ承知相成度

訳文

参照第八五一號

一 英国人俘虜ニ支払ハレル給料ノ件

謹啓陳者一九四四年六月本代表部 J. C. Angst 代表ガ台湾俘虜収容所ヲ訪問仕候節台湾俘虜収容所第一分所ニ於ケル俘虜将校連ニヨリ作製セラレタル質問書ヲ収容所長ノ御好意

ノモトニ受領仕候該質問書ハ俘虜ノ家族ガ本國ニ於テ支給ヲ受ケテ居ル金額並ニ收容國ニ於テ俘虜ガ支払ヲ受ケルタメニ差引カレル可キ金額ヲ質問セルモノニ御座候

右ニ関シ只今貴府委員會ヨリ入手仕候電報ニ依レバ呉國政府ハ左記資料ヲ提出致シ候

左記

一、收容國ニ於テ園貨ヲ以テ支払ノ可キ金額

(イ) 將校

大將	五五〇.〇〇円
中將	四九二.〇〇
少將	四一六.〇〇
副少將及大佐	三一〇.〇〇
中佐	二二〇.〇〇
少佐	一七〇.〇〇
大尉	一二二.〇〇
中尉	八五.〇〇
少尉	七〇.八三

(ロ)、呉國ニ於テ右ト同額ヲ換算率＄1.00＝￥15.08ヲ以テ差引キヲナス該差引額ハ假定的ノモノニシテ若シ俘虜ガ前記金額ニ対スル金額ノ支給ヲ受ケザル場合、又ハ支払ヲ受ケタルモ一部ノミカ使用ナサザル場合ニ対シテハ本人ガ歸國後之等ノ事實ヲ確證セル場合ニハ其支払ヲ受ケザリシ金額又ハ使用ナサザリシ金額ニ対シ前記換算率ヲ以テ支払ヲナス、

(ニ) 家族及被保護者ニ対スル手當及給與金

斯カル家族及被保護者ニ対スル手当及給與金ノ支給ハ本人ガ捕獲セラルル迄支給ナシ居リタルモノニ対シテハ通常ノ規則ノ條件ノモトニ支払ヲ継續サル、支給額ノ一部ヲ要求ハ他ノ被保護者ノ利益ノタメニ支払ヲナス事ヲ得、但シ前記方法ヲ必要トスル場合ニハ俘虜ガ捕獲セラレタル前ニ補助ヲ成シ居リタル事實又ハ若シ捕獲セラレザレバ補助ヲナシ得可キ旨ノ立證ヲ要ス

以上

前記「一(イ)」ニ記載セラレタル金額ハ日本軍当局ニ於テ俘虜ノ階級ニ應シ現ニ支給相成

リ居ルモノト推定仕候就テハ該喋書ノ内容ヲ台湾俘虜収容所第一分所ノミナラズ四所共当局ノ御管轄下ニ於テ現在英國人將校ノ収容サレ居ル各収容所ヘ御傳達被成下候ハヽ本代表部ガ衷心ヨリ感謝仕ル次第ニ御座候

敬具

昭和二十年四月六日

赤十字國際委員會駐日代表部

俘虜情報局殿

俘給第二二號

英國人將校俘虜ノ給料ニ関スル件

昭和二十年四月二十七日

俘虜情報局

台湾俘虜収容所御中

客年六月赤十字國際委員會駐日代表部A.I.C Angst代表貴所訪問ノ節英國俘虜ヨリ同代表ニ提出セル質問「俘虜ノ家族カ本國ニ於テ支給ヲ受ケ居ル金額並ニ収容國ニ於テ俘虜カ支払ヲ受ケル為ニ差引カル可キ金額」ニ対シ英國政府ヨリ左記ノ通提示アリタルニ付可然傳達相成度

左記

一、収容國ニ於テ國貨ヲ以テ支払フ可キ金額

(イ) 將校、大將、五五〇一、中將四九二一、少將四一六一、副少將及大佐三一〇一、中佐、二二〇一、少佐一七〇一、大尉一二二一、中尉八五、〇〇一、少尉七〇、八三

(ロ) 英國ニ於テ右ト同額ヲ換算率£1.00＝1/1 8/4 dヲ以テ差引キヲナス該差引額ハ假定的ノモノニシテ若シ俘虜カ前記金額ニ対スル全額ノ支給ヲ受ケサル場合、又ハ支払ヲ受ケタルモ一部ノミカ使用ナサル場合ニ対シテハ本人カ歸國後之等ノ事實ヲ證セル場合ニハ其ノ支払ヲ受ケサリシ金額又ハ使用ナサリシ金額ニ対シ前記換算率ヲ以テ支払ヲナス

二、家族及被保護者ニ対スル手当及給與金

斯カル家族及被保護者ニ対スル手当及給與金ノ支給ハ本人カ捕獲セラルル迄支給ナシ居リタルモノニ対シテハ、通常ノ規則ノ條件ノモトニ支払ヲ継續サル、支給額ノ一部ヲ或ハ他ノ被保護者ノ利益ノ為メニ支払ヲナス事ヲ得、但シ前記方法ヲ必要トスル場合ハ俘虜カ捕獲セラレタル前ニ補助ヲ成シ居リタル事實又ハ若シ捕獲セラレサレハ補助ヲナシ得可キ旨ノ立證ヲ要ス

以上

居普通第二八號

昭和十九年三月十六日

外務省在敵國居留民関係事務室

鈴木公使

俘虜情報局長官殿

元「グアム」島其他ニ就働セル米國人非戦闘員ニ対シ給與規定傳達方ニ関スル件

米國政府ヨリ在京瑞西國公使館ヲ通シ元「グアム」「ウェーキ」及比島ニ於テ各種建設工事ニ從事セル非戦斗員雇傭者ニ対シ其給與ニ関スル規定左ノ通傳達方要請越タルニ付テハ可然御取計相成度尚御措置ノ上ハ為念其旨御回示相煩度

追而右來信ハ之等從業者ハ東京第二同第三、大阪、神戸、福岡、善通寺及上海、江湾及「ワードロード」各収容所ニ収容中ナル旨附記セラレ居ルニ付申添フ

飜譯文

太平洋島嶼雇傭者賦國「テイタース」夫人ヨリ元「グアム」「ウェーク」及比島ニ在リタル非戦斗員契約雇傭者ニ対シ「一九四二年十二月二日法律第七八四號、一九四三年十二月二十三日同修正法律第二一六號ニ関シ新法規ハ彼等ニ対スル給與ノ支払ヲ規定シ居リ彼等ノ被扶養者ハ満足ニ賃金ヲ受領シツヽアル」旨通達ヲ請フ

俘給第三五號

元「グアム」島其他ニ就働セル米國人非戦斗員ニ対スル給與規定傳達ニ関スル件回合

昭和二十年六月六日

俘虜情報局長官

外務省在敵國民留民関係事務室

鈴木公使殿

五月二十一日附居普通第　號来照首題ノ件ハ既ニ各俘虜收容所ニ傳達済ナルニ付承知相成度

居普通合第三二九號

昭和二十年八月二十六日

外務省在敵國居留民関係事務室

鈴木公使

俘虜情報局長官殿

帝國權内ニアル俘虜抑留者ノ給養ニ関シ米國政府申越ノ件

本件ニ関シ今般在本邦瑞西國公使館ヨリ別紙假譯文ノ通申越シタルニ付委細右ニテ御了知ノ上回答資料大至急御送付相煩度

在本邦瑞西公使館口上書（一九四五、八、一三附）假訳

瑞西國公使館ハ帝國外務省ニ対シ米國政府ハ瑞西國政府ヘ左記日本政府ニ対スル通告転報方ヲ要請セル旨通報スルノ光榮ヲ有ス

記

一九四五年七月四日現在米國ニ於テ收容セラレ居ル日本人抑留者ハ毎日四八三一封度、四、

一〇。「カロリー」ノ食糧ヲ供與セラレ居リ右食糧ハ下記ノ如ク第一ノ数字ハ封度ニ依ル第二ハ「カロリー」含有量ナリ

一、肉及魚	○・四四二五	四四二
二、鶏卵	○・一○七二五	六四
三、牛乳及「チース」	○・五六七四四	三○二
四、「マーガリン」	○・○三六	一二一
五、他ノ油脂	○・○五六二五	二三○
六、砂糖	○・二二五五	三五一
七、穀類	一・二三四	一八八八
八、野菜	○・○四四	七四
九、青物	○・五四八	五五
一〇、「トマト」	○・一五一○四	五
一一、柑橘果実	○・一一八	
一二、馬鈴薯	○・七○	
一三、他ノ野菜	○、三三五二六	
一四、他ノ果物	○、一四七	
一五、干果実	○・○四五	
一六、飲料	○・○六九	
一七、雑	○・○四三一七	

日本政府ハ前記食事ガヨク均衡ノ保タレ居ルモノナルヲ認ムナラン、一九四五年五月五日現在米國ニ在ル日本俘虜モ同様ニ均衡アル食事ヲ受ケツツアリ俘虜ニ対スル代表的献立左ノ如シ

朝食　果実ノ「スチュー」、小麦穀物、「ミルク」、玉子一個、野菜「サラダ」、珈琲

晝食　魚、米飯、野菜「サラダ」、麺麭
夕食　「スープ」、食肉、「マカロニ」、馬鈴薯、麺麭、茶
朝食　生果実、玉蜀黍飯、砕米粥「ミルク」、麺麭「マーガリン」珈琲
晝食　食肉、米飯、野菜、野菜「サラダ」、麺麭
夕食　「スープ」、大豆、馬鈴薯、野菜、麺麭、茶

米國政府ハ日本占領地域並ニ日本ニ於ケル米國人俘虜及抑留者ニ対シ日本政府ノ供與スル食糧ニ付益々憂慮ノ念ヲ深メツツアリ米國ニ於テ受領セラレタル報道ハ多数ノ収容所ニ於テ食糧事情悪化シ居ルヲ示セリ、日本ニ依ル監禁ヨリ釈放セラレタル比島米國人ノ状況ハ日本ノ手中ニアル米國人ノ健康ニ対スル米國政府ノ憂慮ガ根據ナキニアラザルコトヲ示セリ、米國政府ハ戦争ノ当初ヨリ東洋人ノ食事ニ馴レザル米國人ニ対シ日本食ノ及ボスベキ障害ノ故ニ憂慮シ居リタリ、米國政府ハ啻ニ米國人カ東洋食ニ慣ルルコトノ困難ナルベキノミナラズ亦其ノ栄養價ハ米國人ノ慣用スル食事ヨリモ鮮カルベシト感シ居レリ、米國人俘虜及抑留者ニ対スル食事ハ米國政府ヨリノ引續ク要請事項ナリキ（公使館発外務省宛九月四日附及六月二七日附口上書参照）日本政府ハ其ノ手中ニアル米國人ニ適当ナル食事供與方ニ付戦争ノ初ヨリ必要ナル措置ヲ講ズルコトナカリキ米國官憲ハ日本官憲ト異リ量ニ於テモ充分ノミナラズ俘虜抑留者ノ國民的嗜好ニ合致スル食事ヲ供與セリ、米國政府ハ知ル限リ米國官憲ニ依リ収容セラレ居ル日本人ニ対シ供與サレ居ル食事ニ付テハ何等ノ不平ナシ最近日本人ニ依リ運營セラレ居ル俘虜収容所及抑留所ハ米國人ニ対シ総テノ財政的援助ヲ停止セル日本政府ノ行為ハ日本人ガ權内米國人ニ対シ従来ノ唯一ノ方法タル規定上ノ基礎ニ依ル食糧ノミヲ給與セントシ居ルコトヲ示シ居レリ、日本政府ガ米國人ノ為メ救恤品購入ヲ中立國代表ニ許容スルカ又ハ日本政府ガ其ノ義務ニ従ヒ俘虜及抑留者ヲ給養スルニ非ザレバ米國政府ハ日本政府カ其ノ權内ノ米國人俘虜及抑留者ノ饑餓ヲ是認スルモノナリト思考スルノ外ナシ米國政府ハ日本政府カ速ニ其ノ手中ニアル米國人ヲ饑餓ヨリ保護スヘキ旨保障ヲ與ヘンコトヲ期待ス米國政

府ハ尚日本政府ガ其ノ手中ニアル米國人ガ饑餓ニ陥ラザルコトヲ保障スル爲採ルベキ手段ヲ示サレンコトヲ期待ス米國政府ハ日本政府ニ対シ日本ノ手中ニアル米国人ガ饑餓ノ給養ニアル旨ノ報告ヲ看ルニ重大関心ヲ以テシ居ルコトヲ強調ス米國政府ハ日本政府及其ノ官吏ガ日本ノ手中ニアル米國人ノ饑餓ニ対スル責任ヲ逃ルルマトヲ得ザルベキ旨宣言ス

本通告ニ対スル帝國政府ノ回答通報方依頼シ公使館ハ外務省ニ対シ重ネテ敬意ヲ表ス

陸亜普案

俘虜ノ給與ニ関スル件

陸軍一般ヘ達

大東亜戦争ニ於ケル陸軍ノ管轄ニ属スル俘虜ノ給與ニ関シ左ノ通定ム

昭和十七年　月　日

陸軍大臣

第一條　大東亜戦争ニ於ケル俘虜ノ給與ニ関シテハ明治三十七年陸達第九十七號ノ二（俘虜取扱細則）ノ規定ニ拘ラズ本達ニ依ル

第二條　俘虜タル将校ニハ其階級ニ應ジ帝國陸軍将校ノ受クル俸給（佐官ニ在リテハ昭和十四年勅令第四九〇號「陸軍軍人俸給臨時特例」別表第一ノ俸給）ト同一ノ金額（一階給中級額ニ等級アルモノハ最下額）ニ依ル戦時増給ハ之ヲ支給セズ

第三條　俘虜タル文官及准士官以下ニハ俸給ヲ支給セズ

第四條　俘虜タル将校ノ糧食ハ自辨トシ傳令又ハ当番ヲ附シ自炊セシム

収容所長（之ニ準ズル者ヲ含ム以下同ジ）ハ必要ニ應ジ第五條ニ準ジ糧食ノ給與額ヲ指定スルコトヲ得

第五條　俘虜タル文官（高等文官同相当者ヲ除ク）及准士官以下ニ給スル糧食ハ左ノ區分ニ依ル

一　主食ニ在リテハ陸軍給與令第九表ノ定量ノ範囲内ニ於テ労役及其ノ他ニ於ケル國民

食糧配給量等ヲ斟酌シ収容所長之ヲ定ム

二　賄料ニ在リテハ其ノ他ニ付定メラレタル定額（昭和十五年陸支普第二二四〇號「陸食定額並ニ装蹄料臨時増加ノ件」ニ依ル増加額ヲ含ム）以内ニ於テ実費支辨トス

高等文官、同相当者及人員少数ニシテ前各號ニ依リ難キモノニ在リテハ陸軍給與令第九表ノ食料定額（昭和十五年陸支普第二二四〇號「糧食定額並装蹄料臨時増加ノ件」ニ依ル増加額ヲ含ム）内ニ於テ実費支辨トス

第六條　俘虜ノ被服ハ本人着装ノモノヲ使用セシム、但シ左記被服ハ之ヲ貸與スルコトヲ得

一　寝具（古品トシ古品ナキトキハ新品トス）

二　准士官以下ノ着装被服ニシテ使用ニ堪エザルニ至リタルトキニ限リ別表第一ノ被服

三　文官ニシテ着装被服使用ニ堪エザルニ至リタルトキハ別表第二ノ額ヲ超エザル範圍内ニ於テ國民服ニ準ジ調製シタルモノ

前各號ニ依リ貸與シタル着装被服ハ本人ガ解放若ハ死亡ノ際之ヲ本人ニ支給スルコトヲ得

第七條　俘虜タル文官及准士官以下ノ被服ノ補修ハ別表第三ノ金額以内ニ於テ実費支辨トス

第八條　陣営具ハ所要ニ應ジ貸與スルコトヲ得

前項陣営具ハ在庫品ヲ應用シ其保續費ハ実費支辨トス

第九條　俘虜ノ煖室用薪炭ハ陸軍給與令細則第十二表ニ依リ其ノ他ニ付定メアル歩兵隊（歩兵隊ナキ場合ハ其ノ他ニ在ル部隊トス）ノ毎一人額ヲ基準トシ実費支辨トス

第十條　俘虜タル文官及准士官以下ニハ別表第三ノ金額ノ範圍内ニ於テ所要ノ日用品ヲ支給スルコトヲ得

第十一條　俘虜ニシテ旅行ヲ為サシムル必要アルトキハ陸軍旅費規則第五表ノ定額（朝鮮臺灣、樺太、關東州及満州ニ在リテハ当該軍司令官ノ定ムル額）以内ニ於テ実費支辨ト

ス、但シ単独護送ヲ為ストキ等前項ニ依リ難キ場合ニ在リテハ陸軍旅費規程第三表定額内実費支辨ト為スコトヲ得

第十二條　俘虜ノ埋葬ニ要スル費用ハ左ノ金額以内ニ於テ実費支辨トス

准士官以上同相当者　　三十円

下士官兵同相当者　　二十五円

第十三條　官衙ニ於テ俘虜ヲ使役スル場合ノ賃金ハ明治三十七年陸達第一三九號（俘虜労役規則）第九條ノ規定ニ拘ラズ左ノ区分ニ依ル、但シ特種ノ技術ニ従事セシムル者ニハ本人ノ技倆、勤惰、従業時間、従業場所等ヲ斟酌シ更ニ三十五銭以内ヲ増給スルコトヲ得

下士官　　一日　十五銭

兵　　一日　十銭

第十四條　戦地ニ在リテハ其ノ地ノ最高指揮官前各條ニ準ジ之ヲ定ム

附　則

本達ハ昭和十七年　月　日ヨリ之ヲ施行ス

大正四年陸普第一二四號（俘虜文官給與ノ件）及大正七年歐発第一六〇號（俘虜埋葬費支辨方ノ件）ハ昭和十七年　月　日限リ之ヲ廃止ス

別表第

俘虜貸與被服品員数表

品目	員数
略帽	一
冬衣袴	一
夏〃〃	一
冬襦袢袴下	一
夏〃〃	一
軍靴	一
褥布	一
靴下	一

備考

一、貸與スヘキ被服ハ古品トシ古品ナキトキハ新品トス

別表第二

文官被服新調費基準額表

階級＼区分	帽・衣・袴 冬	帽・衣・袴 夏	下着類 冬	下着類 夏	靴
將官相当者	六〇円、〇〇	五〇円、〇〇	七、〇〇	五円〇〇	二五円〇〇
佐尉官相当者	五〇、〇〇	四〇、〇〇	五、〇〇	四、〇〇	二〇、〇〇
准士官相当者	四〇、〇〇	三五、〇〇	四、〇〇	三、〇〇	一五、〇〇
下士官相当者以下	三五、〇〇	三〇、〇〇	四、〇〇	三、〇〇	一五、〇〇

別表第三

被服補修及日用品定額表

階級＼区分		被服補修費（月額）	日用品（月額）
武官	准士官	二円〇〇	七円〇〇
	下士官	一、五〇	三、〇〇
	兵		二、〇〇
文官	將官相当者	七、〇〇	二〇、〇〇
	佐官相当者	五、〇〇	一五、〇〇
	尉官相当者		一〇、〇〇
	准士官相当者	二、〇〇	七、〇〇
	下士官相当者	一、五〇	三、〇〇
	其他		二、〇〇

居普通第二二四號

昭和十八年三月九日

在敵國居留民関係事務室

特命全權公使　鈴木九萬

俘虜情報局長官殿

川崎、横浜、神奈川俘虜收容所改善方米國政府ヨリ申上ニ関スル件

二月二十日附居普通第一四七號ヲ以テ東京及横浜俘虜收容所待遇等ニ関シ申進シ置キタルトコロ今般更ニ在本邦瑞西國公使館ヨリ別紙譯文ノ通米國政府ノ要求ヲ通報越シタルニ付委細同譯文ニヨリ御承知相成度此段申進ス

譯文

第CC一・二・四・CICU號

一九四三年二月二十四日

瑞西國公使館

帝國外務省御中

瑞西國公使館ハ一月二十二日附第CC一、二・四号ヲ以テ帝國外務省ニ対シ米國政府カ東京附近品川所在俘虜收容所ニ存在スル状態ノ改善方ヲ帝國政府ニ要求スル旨通報スルノ光栄ヲ有シタリ。本件ニ関シ軍當局ノ執ラレタル決定ヲ御通報アランコトヲ依頼ス

一方米國政府ハ川崎・横浜及神奈川ノ收容所ニモ同様ノ改善ヲ為サレタキ希望ヲ表明セリ

更ニ同政府ハ左ノ點ニ帝國政府ノ注意ヲ喚起セント欲ス

一　酒保ハ各收容所ニ設置セラル可シ俘虜ノ待遇ニ関スル一九二九年七月二十七日ノ條約ハ其第十二條ニ於テ「各收容所内ニハ酒保ヲ設ケ俘虜ヲシテ地方的市價ヲ支拂ヒテ食料品及日用品ヲ購買シ得セシムヘシ」ト規定シ居レリ

二　俘虜タル下士官ハ「特ニ報酬的作業ヲ要求セサル限リ」監督勞務ニノミ服セシメラルヘシ（同條約第二十七條第三項）

三　同條約第四十四條第二項ハ「信任者ト軍事官憲及保護國トノ通信ノ為諸信任者ハ一切ノ便宜ヲ與ヘラルヘシ」及「該通信ノ数ハ制限セラレサルヘシ」ト規定セリ

四　寿府條約第十六條第二項ニ依レハ俘虜ニシテ司教タル者ハ自由ニ同宗派ニ屬スル者ノ間ニ宗教ヲ司ルコトヲ許サルヘキナリ

米國政府ハ帝國政府カ上記收容所ニ存スル状態ヲ俘虜法典ノ要求ニ合致スル様改善スルノ何等カノ措置ヲ執ルコトヲ切望ス

依テ瑞西國公使館ハ帝國外務省ニ対シ本件米國政府ノ要求ニ関シ帝國政府ノ見解ヲ回報セラレンコトヲ依頼シ並ニ重ネテ深甚ナル敬意ヲ表ス

一一七外

飜譯文

參照第一三三號

一、東京俘虜收容所内加奈陀人俘虜RSM OSCAR CHARLES KEENAN H6001ニ関スル件

謹啓貴局益々御隆祥之段奉賀慶候

就テハ壽府赤十字國際委員會経由入手仕候消息ニ依レバ標記ノ俘虜ハ眼鏡ヲ必要トスル由ニ御座候

本代表ハ俘虜収容所ニ於テハ適當ナル眼科医ノ手當ヲ受ケ得ラルル事實ヲ充分ニ承知仕居候

而シテ若シ標記ノ俘虜カ事實眼鏡ヲ必要トスルモノナレバ無論適宜ノ處置ヲ致サレ居ルモノト確信仕候ニモ不拘若シ貴局ニ於テ右御調査ノ上其結果可及的速ニ御通知被成下候ヘバ感謝ノ至リニ奉存候

敬具

昭和十八年十一月三十日

赤十字國際委員會駐日代表部

俘虜情報局御中

俘給第三號

加奈陀人俘虜ニ関スル件回答

昭和十九年一月二十日

俘虜情報局

赤十字國際委員會駐日代表部御中

參照第一三三號來照首題ノ件左記ノ通回答ス

左記

加奈陀俘虜「キーネン」ハ昨年三月横浜市五味眼鏡店ニテ適當ナル眼鏡ヲ購入シ現在ソレヲ使用シ居リ何等不便ヲ來シ居ラサルニ付右回答ス

條ニ普通第四三四號

昭和十九年六月二十九日

外務次官

俘虜情報局長官殿

四〇四

上海俘虜収容所ニ於ケル五名ノ英國人保護人員ノ取扱ニ
関スル英國政府申出ノ件

本件ニ関シ今般在京瑞西國公使館ヨリ五月十二日附口上書CC／5／10－EFlヲ以テ別添寫ノ通
通報アリタルニ付右譯文ト共ニ送付ニ委細右ニテ御了知ノ上何分ノ儀御回示相成度シ

本信寫送付先　陸軍省、海軍省

五月十二日附在京瑞西國公使館口上書CC／5／10－EFl

瑞西國公使館ハ帝國外務省ニ対シ英國政府カ赤十字國際委員會ヨリ英國人俘虜ノ「リスト」一通ヲ受領シタル處之カ中ニハ保護人員ニ属シ然モ日本官憲ニ依リ保護人員ト認メラレサリシ者ノ名カ含マレ居リタル旨ヲ通報スルノ光榮ヲ有ス

右ハ左ノ五名ニシテ英國陸軍衛生部隊（Royal Army Medical Corps）ニ属シ上海ノ収容所ニ収容セラレ居ルモノナリ

「ジエー、ジー、エム、リンチ」（J.A.G.M. Lynch）陸軍大尉
第三〇五一九三五號「ジョージ、アラン」（George Allan）伍長
第七二八三三七一號「ヒイチ、ジエー、ダーシー」（H.J. Darcy）兵
第七三四四三三〇號「アレキサンダー、ブカーナン」（Alexandre Buchanan）兵
第二五六八二一七號「トーマス、ムーニー」（Thomas Mooney）兵

同公使館ハ帝國外務省ニ於テ関係官廳ニ対シ前記五名ニ保護人員ノ享有スル特權ヲ賦與セシムル様斡旋ノ労ヲ取ラルルナラバ深謝ニ堪エサルトコロナリ

本件ニ関スル帝國外務省ノ仲介ニ対シ謝意表彰旁々同公使館ハ茲ニ重ネテ外務省ニ向テ深甚ナル敬意ヲ表ス

俘給三七號

上海俘虜収容所ニ於ケル英國衛生人員ノ取扱ニ関スル件

昭和十九年八月九日

俘虜情報局長官

四〇五

外務次官殿

六月二十九日附條ニ普第四三四號來照首題ノ件ニ關シ上海俘虜收容所ニ就キ調査シタル所該五名ハ捕獲當初香港俘虜收容所ニ收容ノ際赤十字條約第二十一條ニ定ムル該記章證明書等ヲ所持セサリシ爲衛生人員トシテ認メアラサリシヲ以テ上海俘虜收容所ニ於テモ衛生人員タルコトヲ認メアラサルモノナル旨回答ニ接シタルニ付承知相成度

居普通第七六六號
昭和十九年十一月二十一日

外務省在敵國居留民關係事務室
鈴木公使

俘虜情報局長官殿

俘虜ノ保健衛生ニ關シ英國政府ヨリ申出ノ件

本件ニ關シテハ曩ニ九月七日附居普通第六〇四號往信ノ趣旨ニ依リ英國政府ニ回答方取計置キタル處今般更ニ在京瑞西國公使館ヨリ別紙譯文ノ通香港俘虜收容所ニ於ケル「ヴィタミン」缺乏症ニ對スル措置ニ付問合アリタルニ付委細右ニテ御了承相成度

一九四四年十一月十三日附在京瑞西國公使館口上書

假譯文

瑞西國公使館ハ帝國外務省ヨリ十月三日附歐普通第二九五號覺書ヲ受領シ帝國政府ニ於テハ俘虜ノ保健及衛生ニ關シ深甚ナル注意ヲ拂ヒ居リ毎月俘虜ノ健康診斷ヲ行フ等ノ措置ヲ講シ又俘虜ニ對シ「ヴィタミン」不足ヲ來サザル樣玄米、糠「ヴィタミン」劑ヲ與ヘ居ル旨聲ニ通報越ノ次第ヲ了承スルノ光榮ヲ有セリ外務省ハ脚氣患者數ハ内地ニ在リテハ一分譯ニシテ泰國及「ビルマ」ニ在リテモ二分強ニ止ル旨附記セラレタリ

公使館ハ[illegible]政府ヘ調[illegible]ノ爲本國政府ヘ報告セルコトヲ通知スルノ光榮

ヲ有ス

然ルニ英國政府及自治領政府ハ去ル八月十日赤十字國際委員會代表カ香港俘虜收容所ヲ訪問セル際ノ報告ニ依リ英國人俘虜中ニ「ヴイタミン」缺乏ニ依ル多数患者アルコトヲ承知セル旨倫敦ヨリ新通牒アリタリ此等政府ハ頗ル不安ニ駆ラレ居レリ

仍テ英國政府ハ帝國官憲カ同症駆逐ノ為執ラレ居ル措置ヲ通報方希望シ居レリ

公使館ハ帝國外務省ニ対シ右ニ対スル確言ヲ英帝國政府ニ通報方要請旁茲ニ重ネテ敬意ヲ表ス

香港占領地總督部經由

香俘情第一一號

昭和二十年二月一日

俘虜ノ保健並ニ衛生ニ関スル件回答

香港俘虜收容所長

俘虜情報局長官殿

昭和十九年十二月八日附俘医第一〇號ニ係ル前題ノ件左記ノ通リ回答ス

左記

一、當所ニ於ケル昭和十九年八月以降ビタミン欠乏症ノ種類別（脚気、腸炎）ノ各國人別患者一覧表附第一ノ第二ノ如シ發生新患ニ於キテハ脚気患者ハ最低〇、一八%ヨリ最高一、〇七%ノ間ヲ上下シツツアリテ急性胃炎ニアリテハ〇、一五%ヲ出テス急性腸炎ハ一%前後ニシテ其他ノ栄養欠病ニアリテハ一%以下ニ止レリ

尚入院患者ニアリテハ脚気ハ最高ハ一、一九%ヨリ最低三、八四%ニシテ漸減シツツアリ急性腸炎ハ最高一%ヲ出テス其他ノ栄養欠病ニアリテハ一、〇七%以下ニシテ何レモ漸次減少シツツアリ

二、右防止対策

(イ) 施療上

一二九外

毎日定期的ニ香港陸軍病院ヨリ俘虜用薬物ヲ受領シアリ（附表第三）是ヲ以テ見ルモ毎日ビタミン末同B₁液同B錠及肝油ハ最低必要量ヲ受領シアリテ患者ノ治療ニ遺憾ナキモノト信ス

(ロ) 給養上

現在俘虜ニ就キテハ附表第四、第五ノ如ク給與ヲ實施シツツアリテ算定養價ニアリテハ最高二・七七六「カロリー」最低二・〇七「カロリー」ナリ然シテ毎月二回ニ亘リ差入ヲ許シ且労務者ハ労役費ヲ得ルヲ以テ俘虜酒保ヨリ罐詰（牛肉、豚肉、野菜、豆等）ヲ購入シ得ヘリ更ニ毎月報告ノ如ク自營栽培並ニ養鶏養豚ニヨル収穫物相當量アリテ營養上ニツイテハ充分ナリ尚將來ハ益々自營栽培等ヲ増強セシメアルヲ以テ更ニビタミン欠乏症患者ノ減少ヲ期待シ得ベシ

(ハ) 其他

毎朝約三十分ニ亘リ心入保健体操ヲ實施シ戸外遊戯散歩入浴等ヲ奨励シアリテ保健状態ハ良好ナリ

三、右ノ反駁資料

(イ) 氣候風土ニ対スル俘虜体質ノ虚弱其ナキヤトノ懸念アリシモ當所ノ俘虜就中白人俘虜中英人ハ數年上着セルモノニシテ氣候風土ニ概ネ馴化シアリタルト思考シ得ヘク加奈陀人俘虜ハ大東亜戦勃発約三週間前ニ到着セルモノニシテ前居住地ハ「ジャマイカ」ニシテ英人ニ比シ体力稍々劣弱ト思考サル其他義勇軍ハ殆ト香港生シ乃至ハ香港ニ永住セシモノニシテ氣候風土ニ慣馴シアルヲ以テ考慮スルノ要ナシ

(ロ) 施療上成シ得ル限リ香港陸軍病院ト緊密ニ連絡シビタミン剤ノ確保ニ萬全ヲ期シツツアルモ薬品ハ病院自体ニ於テモ一般ニ欠乏シアル状態ニシテ俘虜ノ爲特別ノ便宜ヲ得ルニ至ラス

対策トシテハ第二項給養上ノ施策ニ述ヘタル如ク現地自營栽培ヲ更ニ強化シビタミン欠乏症ノ減少絶無ヲ期シツツアリ

附表第一

英、加、其他（白人）國籍別各月末現在入院患者一覽表

月別	國籍別＼病名別	脚気	榮養器病 急性腸炎	榮養器病 其他ノ榮養器病	摘要
八月	英國	八二	六	一九	
	加奈陀	五〇	二	九	
	其ノ他	四		一	
	計	一三六 (8.05)	八 (0.47)	二九 (1.71)	
九月	英國	八四	六	一八	
	加奈陀	五〇	二	九	
	其ノ他	四		一	
	計	一三八 (8.19)	八 (0.47)	一八 (1.07)	
十月	英國	七七	五	一二	
	加奈陀	四七	二	四	
	其ノ他	四			
	計	一二八 (7.51)	七 (0.42)	一六 (0.95)	
十一月	英國	四三	四	七	
	加奈陀	一九	一	三	
	其ノ他	三			
	計	六五 (3.89)	五 (0.29)	二〇 (0.59)	
十二月	英國	四三	四	八	
	加奈陀	一九	一	三	
	其ノ他	三			
	計	六五 (3.89)	五 (0.29)	一一 (0.65)	

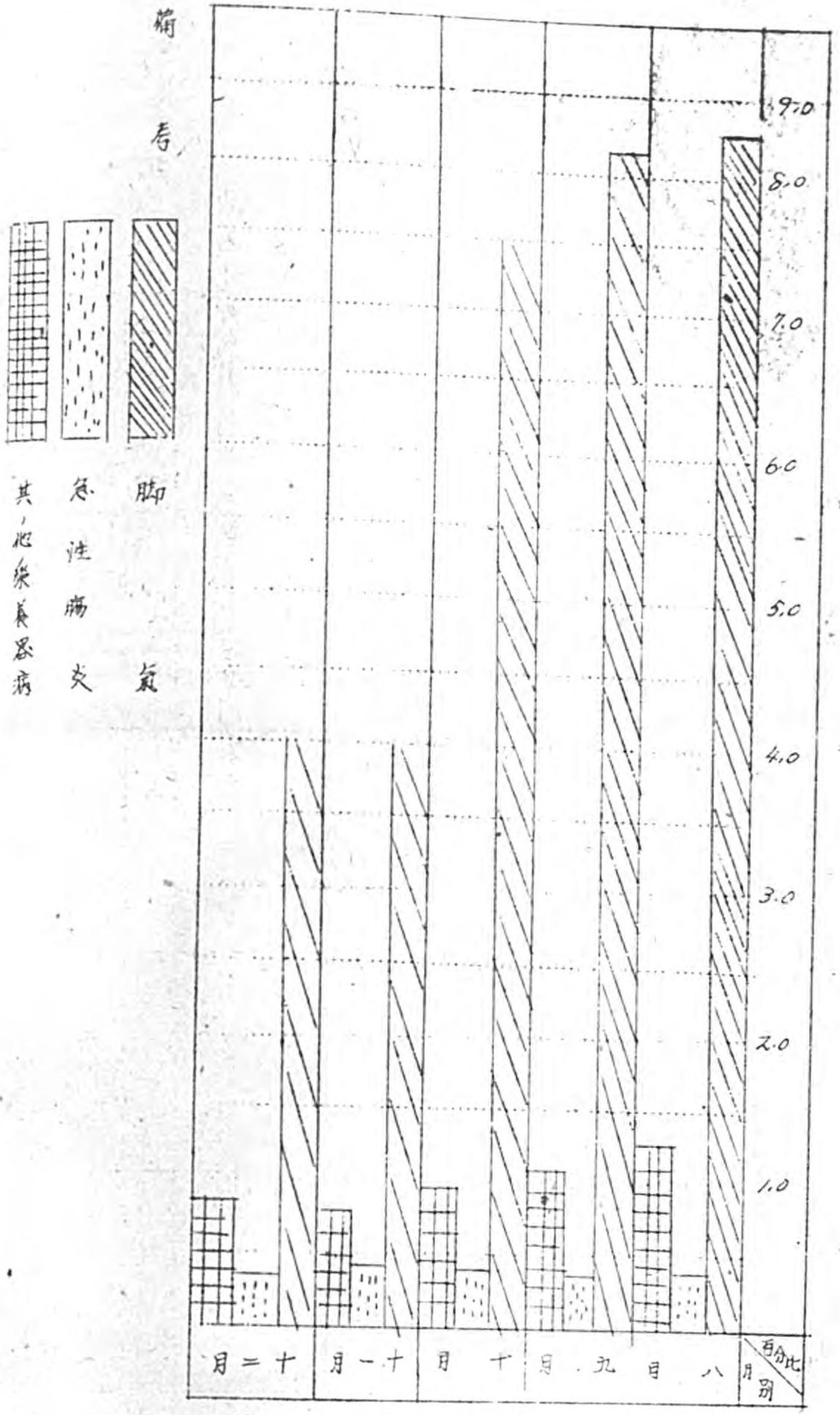
備考

一、括弧内ハ總員（白人）ニ對スル百分比

二、國籍別中其ノ他トアルハ白人ヲ示ス

附表第二

入院患者病類別統計表（百分比）



附表第三

香港陸軍病院ヨリ受領セル俘虜用薬物

品目	單位	八月	九月	十月	十一月	十二月
ビタミンB1液	筒	三五〇	二〇〇	三五〇	三五〇	二五〇
ビタミンB錠	〃	八、〇〇〇	二、〇〇〇	—	一、一〇〇	一、二〇〇
ビタミンB末	瓦	一、五〇〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇	—	—
肝油	〃	一、〇〇〇	五〇〇	五〇〇	五〇〇	五〇〇

附表第四

給養定量（労務ニ服スルモノ）

区分	数量	蛋白質	脂肪	含水炭素	養價
現地米	六〇〇	三二、八	二、一	四七二、〇	二、〇三八、二
大豆	四	一、一	〇、六	〇、五	一二、八
冷凍魚	一二〇	二一、九	三、八	—	一一三、八
生野菜	五〇〇	六、〇	〇、七	三五、一	一七〇、七
香辛料	五	—	—	—	—
砂糖	一五	〇、一	〇、三	一四、二	
食塩	五	—	—	—	
茶	三	—	—	—	—
食油	四〇	—	四〇、〇		
計		六一、九	四六、二	五三二、八	二、七五〇、九

附表第五

給養定量（労務ニ服セサルモノ）

区分	数量	蛋白質	脂肪	含水炭素	養價
現地米	四八〇	二六、三	一、七	三七七、六	一、六三〇、九
大豆	三	〇、九	〇、五	〇、四	九、七
冷凍魚	六〇	一〇、九	一、四	—	五六、三
生野菜	三二四	三、六	〇、四	二二、八	一〇九、二
香辛料	一	—	—	—	—
砂糖	五	〇、〇四	〇、〇一	四、七	一九、〇
食塩	五	—	—	—	—
茶	三	—	—	—	—
食油	二〇	—	二〇、〇	—	一八〇、〇
計		四一、七	二四、〇	四〇五、五	二、〇〇五、〇

居秘第一七六號

昭和二十年三月二十六日

外務省在敵國居留民関係事務室

鈴木公使

俘虜情報局長官殿

香港ニ於ケル俘虜ノ保健及衛生ニ関シ英國政府申出ノ件

昭和十九年十一月二十一日附居普第七六六號ヲ以テ既ニ照會致シ置キタル本件ニ関シテハ香港俘虜收容所長ヨリ貴長官宛報告香俘虜情第一一號ニ基キ別添口上書案ノ如ク回答致シ度存居ル處右ニテ差支ナキヤ折返シ何分ノ儀御回示相成此段依頼申進ス

在京瑞西公使館宛口上書案

帝國外務省ハ瑞西公使館ニ対シ一九四四年十一月十三日附口上書CC一・三・六〇九ニ関シ左記通達スルノ光榮ヲ有ス

帝國公使館ハ瑞西公使館ニ対シ茲ニ重ネテ敬意ヲ表ス

記

一、香港俘虜收容所ニ於テハ「ビタミン」缺乏症防止対策トシテ左ノ措置ヲ講シツツアリ

(イ) 毎月定期的ニ在香港帝國陸軍病院ヨリ俘虜用藥物ヲ受領シツツアリテ毎月「ビタミン」B末、同B液、同B錠及肝油ハ最低必要量ヲ受領シアリテ患者ノ治療ニハ遺憾ナキモノト認ム

(ロ) 現在俘虜ハ最高二、七七六「カロリ」最低二、〇七一「カロリ」ノ給與ヲ受ケ毎月二回差入ヲ許サル

勞務者ハ勞役費ニテ俘虜酒保ヨリ罐詰(牛肉、魚肉、野菜、豆等)ヲ購入シ得

野菜自營栽培及養鷄、養豚ニヨル收穫量相當アリ

以上ニテ榮養上ハ充分ナリ

(ハ) 毎朝約三十分必ス保健体操ヲ實施シ戸外遊戯散歩入浴等ヲ獎勵シアリテ保健狀態ハ良好ナリ

(二) 右ノ結果トシテ同所ニ於ケル一九四四年八月以降「ビタミン」缺乏症ノ種類別（脚気、腸炎等）各國人別患者一覧表附表第一ー第二ノ如クシテ新患ニツキテハ脚気患者ハ最低〇・一八%ヨリ最高一・〇七%ノ間ヲ上下シツツアリテ急性胃炎ニアリテハ〇・一五%ヲ出テス急性腸炎ハ一%前後ニシテ其他ノ榮養器病ニアリテハ一%以下ニ止レリ

尚入院患者ニアリテハ脚気ハ最高八、一九%ヨリ最低三・八四%ニシテ漸減シツツアリ急性腸炎ハ最高一%ヲ出テス其他ノ榮養器病ニアリテハ一・七%以下ニシテ何レモ漸次減少シツツアリ

（香俘情第一一號附屬ノ附表第一、第二略）

（瑞西公使館ニ出ス場合ハソノ附表ヲ貼附ノコト）

俘醫第三號

香港ニ於ケル俘虜ノ保健及衛生ニ関シ英國政府申出ノ件

昭和二十年四月二十一日

俘虜情報局長官

外務省在敵國居留民関係事務室

鈴木公使殿

昭和二十年三月二十六日附居秘第一七六號ニ依ル前題ノ件貴見ノ通ニテ差支無之但シ記一ノ(イ)中「最低必要量ヲ受領シアリテ」ヲ「必要量ヲ受領シアリテ」ニ訂正セラレ度

参照第八六〇號

一　盲目俘虜ニ関スル件

昭和二十年四月十四日

赤十字國際委員會駐日代表部

俘虜情報局殿

貴局宛業書参照第六四七號、昭和十九年十一月十八日附及参照第七七二號昭和二十年二月二十五日附ヲ以テ左記徴願仕候件御参照被下度候

左記

一、盲目俘虜名簿ヲ國籍別、收容所名、及盲目トナリタル原因ヲ付シ壽府赤十字國際委員會宛電報ヲ以テ御通報相受ケタキ事

二、日本軍當局御管轄下ニ於ケル盲目俘虜ニ対スル特別治療方法ニ関スル情報

三、日本軍當局ニ於テ示顯支障ナシト御考慮相成ル盲目俘虜ニ関スル情報

四、英國政府ノ提議ニ係ル盲目俘虜ニ対シ或ル特種ノ訓練、例ヘバ日本人盲目者ニ対シ按摩術ヲ習得セシムルガ如キヲ実施スル件

以上

本代表部ガ只今入手仕候通知ニ依レバ英國政府ハ前記情報以外ニ左記ニ関スル俘虜名簿ヲ可及的速ニ電報ヲ以テ壽府委員會宛御通報方依頼越候

(イ)視力ヲ一時的損ジ居ル者及其程度、原因附記サレタシ

(ロ)視力ヲ永久的且ツ不治的ニ損ジ居ル者及其程度、原因附記セラレタシ

右名簿ハ国籍及收容所別ナルコト

英國政府ニ於テハ多数ノ俘虜ガ「ヴィタミン」不足ニ起因シテ眼病ヲ病ヒ居ルコトヲ認知セルモノ、如ク且又俘虜ヨリノ通信中少ナクトモ或者ハ視力ヲ非常ニ害シ不治的ニ損ジ居ル旨通報ナシ居ルモノ、如 御座候

以上

俘給第二四號

盲目俘虜ニ関スル件回答

昭和二十年四月二十八日

俘虜情報局

赤十字國際委員會駐日代表部 御中

四月十四日附参照第八六〇號ニ依ル首題ノ件ニ関シ現在ノ調査ニテハ「ビタミン」欠乏ニ因ル失明俘虜ナキニ付承知相成度

居秘第二一〇號

昭和二十年四月十日

外務省敵國居留民関係事務室

鈴木公使

俘虜情報局長官殿

失明俘虜及「ビタミン」欠乏ニ依リ視力ヲ冒サレタル俘虜名簿入手方ニ関スル件

本件ニ関シ瑞西公使館ヨリ別紙写ノ通リ失明俘虜及「ビタミン」欠乏ニヨリ視力ニ障害ヲ受ケ失明同様トナリタル俘虜名簿ノ入手方申越アリタルニ付テハ委細右ニテ御了知相成御取調ノ上何分ノ儀御回示相成度此段依頼申進ス

一九四五年四月六日附外務省宛瑞西公使館口上書（CC一、五、二〇FGC）

日本權力下ニアル失明俘虜ニ関スル累次ノ通報ニ関シ瑞西公使館ハ帝國外務省ニ對シテ英國政府ハ最近ノ通報ニ於テ此等俘虜名簿ヲ入手致度希望ヲ表明ロルコトヲ通報スルノ光栄ヲ有ス

尚英國政府ハ「ビタミン」欠乏ニヨリ一時的ニ視力ヲ冒サレタル相当数ノ俘虜カ極東ニアルコトヲ指摘セリ然ル處中ニハ甚タ憂フヘキ状態ニ於テ冒サレ居リ其中ノ数名ハ永久ニ失明スルニ至ルヘシト認メラル　英國政府ハ此等俘虜名簿モ亦同様ニ承知致度同政府ハ特ニ香港ニハ尠クトモ本件ニ関スル俘虜ニ名アルコトヲ指摘セリ

瑞西公使館ハ英國政府ニ其ノ要求スル情報ヲ供給シ得ル様帝國外務省ニ依頼スルト共ニ此ノ機會ニ茲ニ重ネテ敬意ヲ表ス

俘給第二三号

失明俘虜及「ビタミン」欠乏ニ依リ視力ヲ冒サレタル俘虜名簿入手方ニ関スル件回答

昭和二十年四月二十八日

俘虜情報局長官

外務省敵國人留民関係事務室

鈴木公使 殿

四月十日附居秘第二一〇号ニ依ル首題ノ件ニ関シ現在ノ調査ニテハ「ビタミン」欠乏ニ依ル失明俘虜ナキニ付承知相成度

譯文

参照第一〇五二號

一、盲目俘虜ニ関スル件

昭和二十年七月二十八日

赤十字國際委員會駐日代表部

俘虜情報局 殿

標題ノ件ニ関スル貴局宛弊書昭和十九年十一月十八日付参照第六四七號昭和二十年二月十五日付参照第七七二號及同年四月十四日付参照第八六〇號ニ関シ更ニ壽府委員會ヨリ電報ヲ以テ日本軍御當局ニ於テ右ニ對スル御取扱ヒ方御決定相成候ヘバ其趣キ御通知方願致シ來リ申候

右壽府來電中ニ壽府委員會ハ該問題ニ対シ非常ナル関心ヲ有シ居ル旨表示致シ居リ候ニ付何卆至急御回答被成下候ハバ奉謝候

回答

各收容所ニ收容シアル失明（完全）俘虜人員當局ニ通報セラレアルヲ以テ之カ收容所名人員ヲ通報且待遇ニ関シテハ附添人ヲ附シ充分保護シアリ附與スヘキ特異ナル技術ニ関シテ目下ノ処考慮シアラス

譯文

参照第七七二號